女子作法書

佐方鎮子
後藤象野合著
寳雅堂藏

77
18

77 特23
181 125

佐方鎮子
後閑菊野合著

實習之部

女子作法書

東京 目黒書房
成美堂合梓

女子作法書實習之部目次

要旨……一
第一 態度……二
第二 動作……二
第一章 拜禮……四
第一節 普通禮……四
第二節 最敬禮……五
第三章 主客應接……九
第一節 送迎及び着椅……九
第二 供具……十一
第三章 出入……十四
第一 戸障子……十四

77 特23
181 125

佐方鎮子
後閑菊野合著

實習之部

女子作法書

東京 目黒書房
成美堂合梓

女子作法書實習之部目次

要旨……一
第一 態度……二
第二 動作……二
立禮……四
第一章 拜禮……四
第二章 普通禮……四
第三章 最敬禮……五
第二章 主客應接……九
第三章 送迎及び着椅……九
第二 供具……十一
第三章 出入……十四
第一 戸障子……十四

第二　簾幕……十五
第四章　途中……十六
第一　行逢の禮……十六
第二　人の前を通る禮……十八
第三　行幸啓拜觀の禮……十九
第五章　物品授受……十九
第一　草花木枝……二十
第二　洋刀……二十
第三　傘及ひ杖……二十一
第四　書翰……二十二
第五　辭令書……二十二
第六　卒業證書……二十三
座禮……二十五

第一章　拜禮……二十五
第一　普通禮……二十六
第二　最敬禮……二十七
第二章　屋内動作……三十
第一　戸障子開閉……三十
第二　人の前を通る禮……三十一
第三　人に手水を進むる禮……三十二
第四　衣服扱ひ方……三十二
第五　燭具扱ひ方……三十四
第六　掛物掛け方……三十九
第七　敷物扱ひ方……四十三
第八　塵埃收め方……四十四
第三章　物品進撤……四十四

第一　煙草盆……四十四
第二　火鉢……四十八
第三　茶……五十
第四　菓子……五十三
第五　書籍……五十六
第六　卷物……五十八
第七　色紙短册……六十
第八　料紙硯箱……六十二
第九　双物……六十五
第十　扇子及び團扇……六十七
第十一　碁盤及將棊盤……七十一
第十二　樂器……七十三
第四章　進物……七十七

第一　水引掛け方……七十八
第二　包み方……七十九
第五章　饗應……九十六
第一　調膳……九十七
第二　配膳……九十九
第三　給仕……百三
第四　受饌……百十七
附　陪食……百二十五

女子作法書實習之部目次終

女子作法書

佐方鎭
後閑菊野合著

實習之部

要旨

禮節の要は長者を敬ひ同輩に傲らず起居進退を適宜にして粗野なる擧動なきにあり如何に誠心を以て人を敬ふとも其方法宜しからざる時は充分に人をして滿足せしむること能はずされば能く式作法を心得て其誠心を表するに遺憾なきやう務むるを可とす封建の代に在りては公家武家の禮法異りしかど何れも其作法甚嚴格なりきさて此作法を習ふといふことは古き昔よりありし

ことにて古今著聞集に云く後鳥羽院密に大内に御幸なりて白馬節會の習禮有りけり云々と是を以ても昔より如何に禮式を重んじたるかを見るべし況して外國との交際も開けゆく今日座作進退の方法を講ぜずして可ならんや

第一　態度

作法を實習するには先つ身體容儀を整へんことを要す如何に其所作は次第正しく行ふとも其態度よろしからざるときは人の賞贊を受くること能はず故に先づ態度を整ふるを以て第一の務とせざるべからず

態度は沈靜にして輕卒ならず身體反らず屈まず充分腰をすゑ腹を張り肩を平にし臂を張らず手は斜に膝に付け頭を直にし顏色を整へ視線を正しくして妄に回顧すへからず

第二　動作

動作は總べて角立たずして滯なく安らかならんことを務めざるべからず先づ歩行せんとする時は身體を動搖せざるやう注意し前面一間ばかりの所に目を付け左の足より歩み出づべし歩むやうは早からず遲からず大足にもあらず小足にもかたふかずすら〳〵と進むべし廻旋せんとする時は先づ其向くべき方の足を斜に後方に引き次で他足を之に接し前に引きたる足より徐々に歩み始むべし此際特に兩足を揃へ又は急激に廻旋することあるべからず總べて人に背を示さゞるを以て禮とするが故に廻旋する時は常に上座に向ふべきものとす

又座する時は左足を右足蹠の半迄引き先づ左の膝を突き次に右の膝を突くと共に左の膝をも稍進めて兩膝を揃へて座すべし

座する容は兩膝を揃へ胴を直にし背ぐゝまらず頭を曲げず正しく座すべし

さて立たんとする時は兩手を斜に膝の上に置くべし

手の指は廣がり離れぬやうにし手の掌を少し凹むるやうの心持にて指先を少し内に向けて膝の上に置くべしさて兩足を爪立て丶膝を少し右に斜にひねりて立つべし

立禮

第一章　拜禮

拜禮は人に對して敬意を表する方法なり我國に於ては手を左右に垂れ腰より體を屈するを以て禮とするなり拜禮する時は先づ其人に注目せざるべからず然れども久しく凝視するはよろしからず又其體の屈伸は靜肅にして徐々なるを可とす粗卒輕躁なるは敬意を表する所以にあらざるなり又拜禮の際殊更に頭首を俯し膝を屈するが如きは甚醜し注意せざるべからず

第一　普通禮

此禮は身分畧等しき人に對する禮なり昔は身分聊違ふ時は夫々

挨拶の禮も違ひたれど今は聊の違ひにて禮に區別をするは宜しからず故に最貴最卑の人にあらざれば此禮を用ゐて差支へなかるべし普通禮に於ては先づ兩足を揃へ互に注目して相拜すべし此時は帶際にて鈍角を造る程に體を屈し左右の手は膝まで下ぐるを以て度とすべし

長者に對する時は一歩手前にて禮を行ひ終りて一歩進み出で丶挨拶し後又一歩退きて前の如く一禮し上を受け回旋して退くべし

第二　最敬禮

是は貴人に拜謁する時行ふ禮なり貴人と稱する名は廣き名稱にして種々の高下あり此所に擧げたるは最貴の人に對する禮なれば以下の人に對する時は宜しく斟酌して行ふべし

拜謁の時貴人の座正面に在る時は謁者の案内に伴はれて徐々に

進み出で上座の閾の外にて一旦左右の足を止め此所にては稍輕く敬禮すべし次に閾を入りて又兩足を揃へ下座の足より三歩進み稍身を屈して謹慎の狀を表はしながら四足目に左右の足を揃へ其儘體を屈して拜すると同時に左右の手を下げて膝頭に至らしむべし凡そ立禮に於ては如何なる高貴の人に對しても體を屈する狀態は帶際にて直角を作り手は膝まで垂るゝを以て限とし頭を帶より下ぐることなし其屈伸は成るべく之を徐々にし又拜伏の時間は大凡一呼吸を以て度とすべし拜し終りたらば上の足より三歩退き閾際にて一旦兩足を揃へ上座の足より閾を出で此所にて最初の如く敬禮を施し再度三歩逆行して然る後上を受けて廻り歸るべし

又貴人の面前に屏風衝立等立てある場合には先づ下座の方より進むべし即ち屏風或は衝立の蔭より出で貴人の眼に觸るゝ所まで至りし時此所にて禮を施し其儘横に上座の方に進み貴人の正面に至りし時此所にて敬禮を行ひ三歩進みて最敬禮を行ひ三歩退きて又敬禮を行ひ上座の足より逆行して再び隔の外に退き此所にて又禮を行ひ其儘廻りて退出すべし

貴人兩位列座せらるゝ時は先づ閾際に至りて一拜し下座の足より閾を入り第一位の正面に至りて敬禮し三歩進みて最敬禮を行ひ又三歩退きて敬禮し横に第二位の方に進み其正面に至りて拜する事第一位に於けるが如くし逆行して閾を出で此所にて又一拜し猶三歩逆行して退くべし

又貴人數位に拜謁するには先づ上座の方の入口にて斜に向ひて一禮し次に閾を入り數位に對して敬禮を施し斜に三歩進みて第一位の正面に至り此所にて最敬禮を行ひ横に第二位の方に移り其正面にて敬禮を行ふこと前の如し斯くして順次第三位四位と

拜禮を行ひ最後に斜に入口の方に三歩逆行し數位に向ひて敬禮を行ひ閾を出でゝ後又一禮し三歩逆行して退出すべし

又貴人の座上席の左方に在る時は先づ閾の外にて一旦禮を施し後下座の足より入りて稍體を屈しながら右に進み尊位の正面に至りし時足を止めて敬禮を施し下の足より三歩進みて最敬禮を行ひ上座の足より三歩退きて再び敬禮し後逆行して閾際に至り一旦足を揃へて上座の足より閾を出で此所にて最初の如く禮を行ひ上を受けて廻り退くべし但し此場合は正面を以て上席とす

又尊位右に在る時も之に準じて心得べし

若し又數人打續きて拜謁する時は並行に列を作りて進み出で先導者閾際に至りし時一同敬禮を行ふべし閾を入りて上位に向ひ整列して一拜し又進みて最敬禮を行ひ三歩退き再び一拜して歸るべし歸る時は下座の方に向ひ末座の者先導して退くべし

兩陛下の御肖像に對しても右拜謁の心得に從ひ謹みて敬禮を行ふべし大祭等の遙拜に於ても最敬禮を行ふこと勿論なるべし

又歷代の御陵に參拜する時は勿論御陵前を通行する時と雖も恭しく敬禮を行ふべし

第二章　主客應接

第一　送迎及び着椅

尊長者の來訪を受けたる時は主人出で迎へ會釋して己れ先に立ち導きて客室に至り此所にては少し小早に進み豫て設け置きたる上席の椅子の背後に廻り少し腰を屈めて椅子の背部に左右の手を當てゝ此席に着かれんことを乞ふべし客は此時輕く會釋して椅子に着くなり此時主人は靜に下座の方に退き改めて正面に向ひて叮嚀に挨拶し來臨の悉を謝し或は時候の挨拶等あるべし時に客より主人に椅子に着かんことを進む是に於て主人一禮し

て椅子の側に至り其下座に當る側面に立ち會釋して下座の足より三足目にて椅子の前に兩足揃ふやうに注意して進み椅子に着くべし歸らるゝ時は己れ先づ椅子を立ち叮嚀に挨拶して前の如く先導又は扈從して玄關まで送り出づべし

同輩に對しては時の便宜により或は之を玄關に迎へ或は次の間に迎へ又は取次の者をして先づ客室に案内せしめ然る後出でゝ面接することもあるべしさて客を導きて其室に入りたる時は上座の椅子を指示して之に由らんことを請ひ己も亦下座の椅子の側に至り互に挨拶して同時に着椅すべし

客歸る時は椅子を離れて挨拶し主人の送らんとする時は懇に之を辭謝すべし主人は猶送りて玄關に至るを可とす此所にて一禮の後客は直に退出するものとす

下輩を引見する時は己は椅子に凭りたる儘にて挨拶し次に下座

の椅子を指示して之に由らしむべし此時下輩は尊長者の正面に至りて叮嚀に挨拶したる後指示されたる椅子の下座に立ち會釋して靜に之に着くべし歸る時は椅子を立ち更に一二歩下座の方に退きて挨拶し猶一二歩逆行して上座に向ひ廻旋して退くべし

人を先導するには其前に立つは勿論なれども貴人に對しては正面に背を向けざるやうに少し其右の方に寄りて歩むべし

總へて椅子に着く時は腰及び膝の折目は殆と直角に屈曲すべし體を反らし足を伸べ若くは之を交叉することあるべからず又椅子を動搖し或は之を斜歪すべからず

第二　供具

貴賓に物を進むるには正面よりすべし煙草盆の持方は左右の手にて盆の兩側を持ち底の方に小指及び無名指を當て中指を角の所に置き人指及び拇指を側面に當つるなり且つ其指は各指の間

を離れしめぬやうにすべし煙草盆を客の方に正面を向くるが故に己が方には背面の向く事と知るべしさて左足より進み出で卓の前四五尺手前にて一旦立ち止り兩足を揃へ一層慎みたる容體にて進み出で先づ煙草盆を卓上に置き少し手前を持ちて客の正面に据ゑ左右の手を兩膝の上に置き上座の足より三歩逆行し上を受けて廻り歸るべし

茶を進むるには茶碗を臺に据ゑ兩手にて持ち前の如くして進み出で客の前少し右の方に置き右の足より三歩逆行して立ち歸るべし菓子は兩手に菓子器を持ちて歩み出で煙草盆の左の方に置き左の足より逆行して退くべし

火鉢を進めんとする時は豫て卓より稍低き臺を設け置きて其上に進らすべし位置は客の右方を可とするなり

右の諸品を撤せんとする時は手を左右の膝に垂れて徐々に進み

出で卓前にて謹慎の狀を表する事始の如くし先づ其物の端を兩手にて聊引き下げ次に持ち直して一旦己が前に置き此所にて確と取り直し胸の邊まで捧げ持ち三歩逆行して後上を受けて廻り退くべし

同輩は主客對座するが故に横より進むるを常とす先つ煙草盆を持ちて進み出で下座の側面より客の方に向けて卓の中央に置き一二歩逆行して退くべし

茶は主客何れにも左側より進らするなりさて先づ一旦己が前に置き取直して横を持ち客位の正面に差置くべし

菓子は客の方に向けて烟草盆と并べ置くべし若し主客各別に進むる時は己が方に向けて持ち客の左側に至りて一旦前に置き横より推し進むべし總べて立禮に於て横より物品を進撤するには左側よりするを禮とすれども室の模樣客の多少卓の位置等によ

りては右よりするも敢て非禮とはせざるなり
撤する時の心得は前に準じて知るべし

第三章　出入

第一　戸障子

扉　扉を開閉するには先づ把手のある方の戸前に進み把手を取りて靜に之を開き體を廻旋して戸の他側に身を置くと同時に其方の把手を他手に持ちて之を閉づべし但し把手若し向ひて右の戸に在る時は右手にて之を取り左に在る時は左手にて之を取るなり閉づる時は其反對の手を用ゐるものと知るべし

障子　障子を開閉するには其際に至り先づ少し體を屈し左に開くべき所ならば左手を引手又は桟にかけて少しく之を開き次に右手を親骨にかけて體の入り得る程開きて靜に進み入り體を斜にして左手に親骨を取りて之を引き寄せ右手を引手又は桟にか

けて閉鎖すべし唐紙引戸も之に準じて心得べし

第二　簾　幕

簾　簾を出入するには端の方よりすべし即ち簾の端を室内の方に推し入れて入るべし外へ出でんとする時は手前に引きて出づべし又簾の位置の都合により其身の入り得る程兩手にて捲き上げ頭を屈めて入り座敷の都合により右手或は左手にて靜に背さまに下すも差支なし若し初めより捲き上げある時は少し端の方によりて出入し總に頭の觸れぬやうにすべし又椽などにかけたる簾ならば出入共に外に押して通るべし

幕　幕を出入せんとする時は先づ幕の際に體を屈して裾を兩手に持ち其身の出入し得らるゝ程に上げ二足三足進み出で左に廻らんと思はゞ左手にて幕の裾を背後に引き下すべし右に廻る時は右手にて引き下すなり家紋の付きたる幕は其下を避けて他の

場所を出入すべし是れ其主人に對しての禮儀なり御紋章などを打ちたるものは殊に注意すべきことなり

帷は柱の際に至り右手或は左手にて向ひへ押して出入すべし決して高く掲げぬものなり

第四章　途中

第一　行逢の禮

貴人に行き逢ひたる時は先づ二三間此方にて立ち止り三四歩程背ざまに左の方に引き退き少し腰を屈め頭を垂れて如何にも慎みて待ち受け己の前に近寄られたる時は叮嚀に拜禮を行ひ貴人の通り過ぐるを待ちて頭を上げ徐に歩み去るべし此時貴人は過ぎざまに聊頭を下げ目禮して通り過ぐべし

同輩に行き逢ひたる時は四五尺手前にて互に左の方に二歩避け斜に相向ひて靜に禮を施し挨拶終らば双方同時に歩み出でゝ行

きすぐべし

階段の中途にて長者に逢ひたる時は左の端によりて歩を止め腰を屈して待ち居り長者の行き過ぎたる後歩み出づべし若し又己れ最上段に在る時長者の昇り來りたる時は一歩退きて階上にて待ち受け禮を行ふべし又已れ下段近くまで降りし時長者の昇り來る時は成るべく足早に降り果て然る後に禮をすべし同輩に對する時も之に準じて心得べし

車馬にて人に出で逢ひたる時先方の人長者ならば成るべく下りて禮をするを可とす然れども場合によりて心に任せ難き時は其儘にて禮をするも妨なし但し特に敬意を表して懇にすべし見ぬ狀を裝ひて行き過ぐる如きは甚しき無禮といふべし又同輩及び下輩に對する時も之に準じて心得べし

又若し傘を翳し居る時おらば之を疊み又は横たへて挨拶すべし

但し雨降は勿論暑中にて暑さ堪へ難き折などには強ひて斯くするにも及ばざるべしと雖も少長貴賤の區別ある人は尊長者に對しては此心得を忘れざる樣注意すべし

第一　人の前を通る禮

貴人の前を過ぐる時は上座の二三間程手前にて少し體を屈しながら進み行き上位の前に至りし時正しく其方に向ひて一禮し其儘體を向け替へて二三間逆行して後上を受けて廻旋し元の如く向き直りて通り過ぐべし此時貴人はそと目遣ひして會釋すべし

又同輩の前を過ぐる時は向き直るに及ばず暫時足を止めて一禮し其儘過ぎ行くべし受くる人は此時左右の手を膝より下して答禮すべし

下輩の前を過ぐる時は禮をするに及ばずと雖も下輩の者椅子を

離れて恭しく禮を行ふときは一旦止りてそと會釋し其儘に行き過ぐべし又下輩の人は貴人の我前を過ぎらるゝを見ば先づ二三間の距離に近づきたる時椅子を立ちて貴人より遠き方の側に退き立ち手を左右に垂れて稍頭を下げて控へ居り其我が前に來られたる時腰を屈して敬禮し稍過ぎられし折を待ちて再び元の如く椅子に着くべし

第三　行幸啓拜觀の禮

途中にて行幸啓を拜觀するには道の傍に立ちて鹵簿の妨害にならぬやうに控へ居り前驅の見ゆる時は直に傘を疊みて片手に持ち片手を垂れて愼み居り御輦の近づきたる時は體を屈して最敬禮を行ひ過ぎ給ふを待ちて徐に頭を上ぐべし此間決して喧噪にして亂雜の擧動あるべからず靜肅にして拜觀すべきなり

第五章　物品授受

第一　草花木枝

草花　草花は本を紙にて包み水引を掛け倒にして表を人の方に向け右手にて包みたる所を持ち左手を其下に添へて出で人前に至り左手を膝に垂れて一禮し左手に取直して表を己が方に向け右手を添へ二歩進みて之を授け再び二歩退きて禮を行ふべし受くる人は兩手を膝に垂れて立ち出で一禮の後二歩進みて右手に之を受け左手を添へて二歩退き左手を垂れ一禮して立ち歸るべし

木枝　木枝も亦本を包み水引を掛くること前の如し之は梢を上にして持つなり持ち方渡し方受け方共に草花の時に異ることなし

第二　洋刀

洋刀を人に進むるには柄を己が左にし鞘を右にして下緒を人の方に向け左手にて鞘の上部を持ち右手にてその中程を持ち二歩進みて正面より進らせ二歩退きて會釋すべし

受くる人は二歩進み出でゝ右手にて下緒の所を持ち左手にて鞘の下部を持ち二歩退きて挨拶すべし

第三　傘及び杖

傘　傘は右手に中程を持ち左手を柄の下邊に添へて持ち出で人前に至りし時左手を垂れて一禮し次に左手にて中程より稍上部を持ち右手を少し下げ柄を先方の右手にて取らるゝやうにし二歩進みて之を授け再び二歩退きて一禮すべし又時としては擴げて進むる方便利なることもあるべし

受くるやうは兩手を左右の膝に垂れて立ち出で一禮したる後二歩進み出で右手にて中央を下より取り左手を添へて之を受け二歩退ぎ右手に持ちたる儘左手を垂れ一禮して退くべし

杖　杖も亦右に準じて授受すべし

第四　書翰

書翰を人に渡すには表を上にし右手にて中程を持ちて出で相對して禮を行ひ左の手にて手前角を持ち字頭を已か方にするやう取直し右手にて字頭の右角を持ち左手にて左側の中程を持ち二足進みて之を渡し二足退きて禮を行ふて前にいへるが如くすべし

受くるやうは先づ左右の手を膝に垂れて進み出で一禮の後二足進み左手を先きに右手を手前にして之を受け先づ表を見次に右手にて之を左に返し裏を見て直に元に復し右手に中程を持ち左手を垂れ二足退き一禮して退くべし

第五　辭令書

辭令書は竪に四ッ折にするを普通とす先づ渡す人の前三歩手前

にて兩足を整へ此所にて敬禮を行ひ三歩進みて之を受くるなり受くるやうは左手にて下より中程の稍上部を受け右手にて其下端を持ち少し推し戴き上の足より三歩退き左手の拇指を折目の間に入れて中程まで下げ左右の手にて開き見元の如く疊みて右手にて裏より中程を持ち稍斜にして左の方に向け左手を膝に垂れて敬禮し上を受けて廻り退くべし廻旋の際は左手を下端に添へ廻り終りたらば再び膝に垂れて歩み出づべし

若し二通以上重ねたる儘にて渡さるゝ時は先づ上の一枚を開く時右の手にて下のをも合せ持ち左手にて開き見るべし次に上のを下に廻し二枚目のを開き見ること前の如くすべし其他は一枚の時と異ることなし又二通別々に渡さるゝ時は最初の一通を見終りたらば之を懐に納め再び進みて次のを受くべし

第六　卒業證書

卒業證書は卷きて渡すを便利とす其受け方は辭令書の如く左手を先に右手を手前にして之を受け推し戴きて三歩下り右手を證書の中程に進めて之を掌上に保ち左手を膝に垂れて敬禮を行ひ左手を下端に添へて廻旋し歩行する時は再び膝に垂るゝと辭令書の時の如くすべし

若し便宜により廣げたる儘渡さるゝ時は兩手にて之を受け推し戴きて三歩退き此所にて證書を持ちたる儘敬禮を行ひ廻旋して退くこと前の如し

勲章、賞牌、褒狀、賞品等を受くるには大なる物ならば兩手にて之を受け小なるものは右掌を上に左掌を下に重ねて之を受くべし其他は總べて前に準ずべし

座禮

座禮は當時一般の家に適したる禮式にして態度動作等は已に始に於て述べたるが如し而して座禮に於て最も注意すべきは起居歩行の事なりとす起つ時は己が向かんとする方に膝を捻り體を直にして立ち上り決して此際前に屈し或は左右に動搖する等のことあるべからず

歩行するには下座の足より始めすら〳〵と歩み出づべし足を高く擧げ又は殊更に疊を擦りて歩むが如きはよろしからず又閾は勿論疊の緣は成るべく避けて踏まざるやうにすべし目は凡そ一間程前に注け漸々人に近付くに從ひて己か足元を注視するやうにすべし先方の人を越えて彼方を直視するが如きは禮に違へり

第一章　拜禮

拜禮は先づ其座敷の作り方床の位置等によりて其室の上下を見

定め其模樣により斟酌して行ふべし座敷の位置の委しきことは心得の部に於て詳に述べたれば此所には只其大概を說きて實習の便とすべし

床は椽のある方に在りて棚之に並べるを普通座敷の位置とす即ち床のある方上にして棚のあるかた下なり故に此位置に從ひて進退周旋すべし然れども座敷に上下の區別なき時は已か右即ち向ひの人の左を上とし左即ち向ひの人の右を下とすること古今普通の習慣なり故に此所にも右の例によれり

第一　普通禮

普通禮に於ては先づ客を導きて座敷の上席に着かしめ主人下座に着き互に其位置定りたる時は先づ兩手の間三四寸ほど隔てゝ膝の兩脇に突き疊より二三寸の所まで頭を下げて禮を行ふべし挨拶終りて物語などする時は膝の上に手を置きて物靜にすべし

若し改りたる用事などを述ぶる時は更に手を突きて慇懃に語るべし決して粗卒なる狀を現はすべからず

卑賤の人に對する時は兩手を膝の側に突き體を屈して禮を施すべし召使の者などに對する時は片手丈け膝の側に下して先方の禮を受くべし

第二　最敬禮

先づ起居行步の法によりて進み出で貴人の坐せらるゝ次の間の閾際に跪き手を膝の前に突き之と同時に爪立てたる足を下して坐し然る後右の手及び右の膝を同時に引き次に左の手及び膝を引き兩手の一二の指先を合はする程にし兩肘を膝の側に付けて拜すべし此手及び膝を引く所以は居ながらにして貴人を拜するは大なる無禮なるによりて斯く其位置を替ふるなり以後一々言はざれども貴人に對する時は常に此禮に由るべし

拜するやうは頭を下げて手の甲に至らしむべしさて其頭を上下するには徐々にすべし決して急速に上下すべからず然らざる時は其狀輕々しくして且つ人を敬ふ體に背けばなり斯くて頭を上げたる後は右左右と三度手及び膝を同時に引き右に向ひて立ち歸るべし若し又貴人親しく物語などせられんとて猶近く召し寄せらるゝ事あらば其儘膝行して進み出づべし膝行するやうは先づ左右の手を膝の前に突き左右同時に前に進め然る後膝を左右と片々づゝ進むべし斯の如くして程よき位置に至り禮を行ひ而して後貴人の命を待つべし其位置は手を膝の兩側に突き如何にも慎みたる狀にて在るべし打解け狎々しげなる擧動あるべからず詞遣も同樣に心得べし退く樣は先づ右手と左の膝とを同時に引き次に左手と右の膝とを又同時に引き斯の如く逆行して闕を出で此所にて容を改め禮を行ひて立ち歸るべし

若し貴人兩位列座せらるゝ時は先づ上位の前に至り最敬禮の法に由りて拜し然る後次位の方に横に膝行して其正面に至りて拜し三度引きて上位の方に捻りて立つべし若し側近く召し寄せらるゝことある時は闕を入りて兩位を拜し退く時は斜に上位に向ひて拜し次に次位を拜し闕を出でゝ兩位を拜し上座の方に捻りて立つなり數人列座せらるゝ時も此禮により先づ上座の方を拜し次に次位次に三位と順次に拜し最後に上座の方に捻りて立つべし人數多しとて略することあるべからず

數人一同に出でゝ拜する時は五人にても十人にても或は十數人にても並行に列し座席の下の方より進むを法とす先づ最初出づる者の後に三尺程づゝ隔てゝ續き出で闕の際にて右に折れ貴人の座の見ゆる所に至りし時跪きてそと一禮し然る後貴人の方の手を膝の下に垂れ裾の返らぬやうに抑へ腰を屈めて相當の位置

に進み一同正面に向ひ並列して跪き最敬禮の法によりて二膝引きて拜するなり起つ時は左の膝より三膝引きて左の方へ少し捻り下座の者より立ち一同之に續き前の如く手を膝の下に垂れ腰を屈めて退くべし

第二章　屋内動作

凡そ進退周旋の法は何所に於ても素より變るべきにあらざれども屋内に於ては殊に優雅にして疊觸り襖の開け閉て等粗卒ならざるやう心懸くべし

第一　戸障子開閉

先づ開くべき戸或は障子の側に至りて跪き右に開くべき障子ならば右の手を以て障子の引手をとり指先の入る程に開き後に左の手を以て其身の出入せらるゝ程に開き然る後前に擧げたる膝行の法によりて進み入り上座の方を背にせぬやう斜に居向きて

右の手を以て障子を引き寄せ後左の手にて引手を取りて閉づべし左に開く事も右に準して心得べし

第二　人の前後を通る禮

貴人の前を通る時は其座席の二三尺手前にて貴人の方なる膝より跪き斜に其方に向ひ一禮して立つべし此時は正しき最敬禮を行ふに及ばず起つ時は少し下座の方へ膝を捻りて起ちざまに貴人の方なる手を膝の下まで垂れ裾の返らぬやうに押へて腰を屈め三四尺通り過ぎて後常の如くに歩むべし又同輩の前は其座の方の膝ばかり突きて聊會釋して通るべし殊に急ぎの時などは腰を屈め會釋したるまゝにて通ることもあるべし人の後を過ぐる時も同じ心得にて通るべし殊に貴人に對しては後なりとも失禮なる擧動あるべからず

受方は貴人ならば前を過ぐる人に對して答禮せざるは勿論なれ

ども同輩に對しては相當に答禮せざるべからず即ち人の跪きたる時已も左右の指先を膝の兩側に突きて聊頭を下げて答禮すべし決して其儘に見過すべきにあらず

第三　人に手水を進むる禮

人に手水を掛け進らするには上輩ならば湯桶を盥の中に入れ盆に手拭を置きて二人にて持ち出づべしさて先づ盥を前に進め湯桶を取りて物靜に注ぐべし總べて柄杓にても湯桶にても荒々しく掛けぬものなり柄杓にて掛くる時は三柄杓を以て常とす次に盆の儘にて手拭を差出すべし若し手拭臺にある時は其儘にて差上ぐべし又時宜により扇子に載せて進むるも差支なし

第四　衣服扱ひ方

小袖を人に着するには先づ襦袢より上衣まで順次に重ねて襟糸を結ひ袖疊みにして下前を上にし裾を下に折返し襟の方を左にし袖は二つ重ねて袖口を向ひにして折返し置くべし若し貴人ならば廣蓋に載するを可とすさて袖を手前に跳ねて兩袖口に小指を入れ四五の指にて確と挾み其餘の指にて衣紋の所を持ち之に襟先の所を持ち添へて背に廻り引き掛けながら持ち添へたる所を放し次に右の袖を延ばし手を通すに便り能きやうにし後に左の袖を延べて左右の手を通さしめ斯くして裾を廣げて總べて着よきやうにし夫々心要の下紐など取りて進らすべし

帶は二つに折り折目の下に成るやうにして進むべし

袴は三つ折に疊みたるを腰を向ふへ跳ね返し前腰を持ちて引き立て左足より踏み入れさせ前紐は二廻りして背にて結ぶべしさて後腰を當て紐をば前にて結び片紐を諸輪に疊み片紐を眞中に纏ひて其餘を上下に一寸程出だし置くべし

洋服はヅボンを穿きたる後上衣の領を取りて後より左右の手を

同時に入れらるゝやうにして衣すべし和服の如く最初より領を高く上ぐる時は着するに不便なり

第五　燭具扱ひ方

燭具を出だすには座敷の狀況着座の位置等によりて一定し難けれども成るべく客の左の方に寄せて置くを可とす是れ所謂手影暗を避くる爲なり又正面に置く時は目に障る恐あり且つ主客の對面を妨ぐる恐もあり又給仕の都合もあれば旁正面ならざるを可とすべし

又月見などの折はもと月を賞づるの趣意なれば燈火は餘り座の中央に出さず物陰に置くべし然らざる時は賞月の興を妨ぐる恐あればなり總べて是等の事に注意するは接客のことに熟したるものといふべし

器物　燭臺には種々の形あれども普通には灯皿の下に一本の長き棹ありて平なる圓盤の上に立てるものなり但し棹には心剪の附きたると否とあり又現今は多く洋蠟を用ゐるを以て西洋燭臺を用ゐることあり或は洋燈を用ゐることあり何れも皆其形一樣ならざれども其扱ひは一を推して他を察すべし

出し方　普通燭臺を以て言はんに心剪の掛りたる方を手前にし心壺を其下に當る所に置き先づ容姿を整へ右の手にて棹の半を持ち左の手を盤の下に當て能き程の高さに持ち上げて徐に立ち上り常の如く歩み出で臺を置くべき所に跪きて靜に之を置き兩手の指先にて少し推し進め手膝と共に三つ引きて立ち歸るべし

西洋燭臺洋燈共に異ることなし

心剪り方　西洋蠟燭には心を剪る等の手數なけれども在來の蠟燭にては時々心を剪らざるを得ず其方法種々あり左の如し

兩手を膝に置きて徐に歩み出で燭臺の手前三尺程の所に跪き

兩手を膝の前に突きて一進み進み出で左の手を突き右の手を
擧げて心剪を取り下し(食指と拇指にて持つ也)左の手にて扱ひ
右の手にて握り込み食指と拇指にて心壺を取りて左の掌に載
せ次に蓋を取りて之を燭臺の圓盤の緣に掛け其儘體を伸して
心壺を灯皿の上に當て心を剪りて之に入れ直に下げて前の如
く蓋をし右の手にて元の位置に置き心剪を左の手にて扱ひ右
の手にて之を懸け然る後常の如く手膝を三つ引きて立つべし
又燭臺數多並び居る時は前の如くして進み出で心剪を取りた
る後直に之を握り込み心壺の蓋を取り心剪を持ちたる儘手の
甲を下にして突き然る後左の手を伸して蠟燭を取り下し心壺
の傍に寄せて心を剪り直に蓋をして後元の如く蠟燭を立つべ
し尤も此方法は座中に燭臺數多ありて一つ取り下しても妨と
ならざる時の方法なれば其心得にて何れにするもよろし

燭臺數多にして臺毎に心壺心剪備り居らざる時は一組の心剪
心壺にて心を剪るなり即ち心壺を左の掌の上に載せ右の手に
心剪を持ち之を心壺を持ちたる左の手の指先の上に載せ掛け
例の如く徐に歩み出で燭臺近く跪き少し手を下げ右の手に
心剪を握りて心壺の蓋を取り之を盤の緣に掛くること前の如
くし其儘體を伸して心壺を持ち上げ心を剪りて後直に蓋をし
て元の如く持ち三膝引きて立ち次の燭臺の所に至り又前の如
くし順次に心を剪り終りて立ち歸るべし但し心壺の中には豫
て少許の水を入れ置くべし

蠟燭立て代へ方　蠟燭若し盡きんとする時は手燭に他の新しき
蠟燭に火を灯したるを立て持ち出で舊き物と交換すべし即ち
火を灯したる蠟燭を手燭に立て火を右にして右手にて柄の付け
際を持ち左の手にて手燭の柄の端を持ち例の如く歩み出で燭臺

の三尺程手前に跪き其儘手燭を竪さまにして右の側に置きさて一進みして左の手を手燭に掛け右手にて手燭の蠟燭を拔き取り其儘體を伸して燭臺の灯皿の上に上げ左の手にてもと燭臺に在りし舊き蠟燭を拔き取り其後に新しき蠟燭を立て舊き方のを下しながら右の手に移し之を手燭に立て少し右の方に斜に向きて持ち出でし時の如くにして手燭を取り上げ三膝引きて立ち歸るべし

又西洋蠟燭ならば先づ朝顔(覆のことなり)を取りて左の傍に置き然る後前の如くして蠟燭を立て替へ朝顔を元の如くに懸け終りて後手燭を持ちて立ち歸ることと前に異ることなし又器物充分にして燭臺の餘裕ある時は火を灯したる他の燭臺を持ち出でゝ交換するもよろし

引き方　例の如く歩み出で三尺程手前に跪き一進みして燭臺を

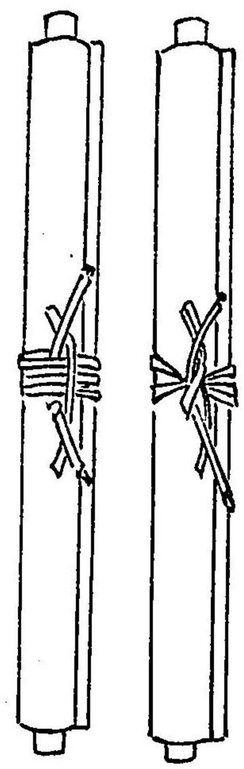
少し前に引き寄せ持ち出でし時の如くに持ち三膝引きて歸ると他の時と異ることなし

序にいふ今は行燈を用ゐる事極めて稀なれども終夜灯し置くには危險の虞なきを以て行燈を可とす行燈に灯す燈心は二本以上にすべし一本を用ゐるは昔より不吉として人の忌む所なり又消火の折は燈心を油皿の中に引き入れて消すべし火を大きくしたる儘にて吹き消す時は油煙後に殘りて其臭久しく消えざれば此心得を以て消すべし又洋燈の火も心を細く引き入れ置きて消す時は容易く滅ゆるのみならず其油煙立たずしていとよし注意すべし

第六　掛物掛け方

此所に掲げたる掛物の掛け方は長者貴人の目前に於て掛け更ふる方法なれども其心得にて常々もなさまほしきことなり先づ掛

物の紐は次の如くに止むるを普通とす



乙圖　甲圖

さて卷きたる儘にて軸の中程を鶯竿に取り添へて右の手に持ち竿の先きを少し下向きにして腰脇の邊に付けて歩み出で床の前一間許手前に座して右脇に置き右手に軸を取りて左の手に渡し右手にて卷紐を解きて膝の前に置き掛物を少し披きて紐を右の方に寄せ風帶を展べて右手にて鶯竿を取り左手にて掛紐を取りて竿に掛けよき程に披きて後竿の柄元と軸元とを右の手に取りて左の手にて軸の中程より少し左の方を持ち立ち上りて後下の足より床に上り釘に懸けて後竿をは取り外づし左の手に掛物を

持ちたる儘にて之を扱ひ右手に竿の稍々上部を持ちて右の方に立て掛け左右の手にて軸を取りて漸くに之を披きながら上の膝より跪くべし披き終りたらば右手に竿の中程を取り膝行して上の膝より床を下り三尺程隔てゝ座し竿を右脇に置き手を突きて掛物の位置正しきや否を見若し曲みなどある時は之を適當の位置にあらしむるやう幾度にても直すべし、

掛け替への時は右の如くにして掛物を持ち出で置き竿のみを取りて床前に跪き左の手を床縁に掛けて下の膝より上り竿を右の方に立て掛け置き兩手にて軸を持ち卷きながら漸く立ち上り善き程まで卷きたる後左手にて軸の中程を持ち右手にて竿を取り立ち上りて前の如く左の手にて扱ひ右手にて竿の柄元を持ちて筈に掛紐を挾み右手にて竿の元を軸元に持ち添へ其儘掛物を外づして立ちながら後ずさりして上の足より床を下り床前よき所

に座し先づ竿を外づして右側に置き兩手に軸を持ちて徐々に巻き收め手の屆く所に至りし時風帶を疊み巻き收めたる時巻紐を掛紐の中央に寄せたる後兩手にて其儘取り上げ充分引き締めて後左の拇指にて掛紐と巻紐と結び合ひたる所を持ち右手に巻紐を持ちて先づ中央に巻き次に左の方より斜に右の方に巻き次に右より斜に左の方に巻き其餘を右なる掛紐にかけて引き通して其末を二つに折りて左の方なる掛紐に挾むべし是甲圖の巻方なり乙圖の紐の巻方は普通の巻物に同し而して其止め方は前に異ることなし併し法式として强ち拘はるに及ばざるなり貞丈雜記に曰く軸物の紐留樣も別に法なし三巻まきて端を折て折目を三巻めの紐に下より上へ挾み置くなり掛繪など三幅對紐の留樣にて左右中を知る留樣ありとてむづかしき留樣世間にあり古への掛繪には外題あり外題に繪の樣子筆者の名左右中まで書付ある

間紐の結樣にて分くるに及ばずと只右に記する如く三巻も五巻もまきて紐の端を挾み置くべし

第七　敷物扱ひ方

敷物は其種類によりて巻きたるもあり疊みたるもあり先づ巻きたる物より言はんに大なるものは二人にて持ち出で巻きたる端を上座の方に向けて差置き二人同時に之を下座の方に繰り廣げ終に位置を正しして退くべし又疊みたるものならば其疊み方によりて相當なる位置に置き然る後前後左右に程よく之を伸ぶべし收むる時は若し塵埃などあらば能く之を拂ひ巻く物は巻き疊むものは疊みて元の如くに下座の方より取收むべし

座蒲團は兩手にて持ち出で適當なる位置を見計らひて靜に下に置き少し推し進めて參らすべし因にいふ夜具蒲團を取扱ふには横よりすべし決して之を蹈む等の無作法あるべかす

第八　塵埃收め方

塵を收むるには先づ塵取に羽帚又は手帚を添へ左右の手にて持ち出で塵のある所に至り塵取を左手に持ち帚を右手に取りて塵を掻き寄せ終りて帚を上に加へ塵の立たぬやう靜に下座に向ひて立ち歸るべし日常掃除をする時は先づ四方を開け放して塵埃の出づるやうにし靜にハタキを掛け風向を考へて掃き出だすべし但し粗き塵は豫め之を取り收め置き地上に掃き落すべからず終りて後は一々器物の塵を拭ふを可とす

第三章　物品進撤

第一　烟草盆

烟草盆には其形種々あり或は長方形にして火入、灰吹、烟草入、烟管を備へたるもあり或は只火入と灰吹なるもあり又は正方形にして火入灰吹を備へたるもあり其他日常使用する物には種々の形

あり其品物にも上中下の差等ありて一定せず然れども長方形の物を以て先は正しとするなり

其器物の位置に就ては先づ完備したるものを言はんに火入を左に置き灰吹を中央に烟草入を右に煙管を前に横たへたるもの通例なり又只火入と灰吹のみならば火入を左にし灰吹を右にすべし正方形の物ならば火入を左の手前の隅の方に寄せ灰吹を右の向角に置くべし其他に至りては形の異るに從ひて各器物の位置も異れども要するに火入を左にし灰吹を右にすることは何れも同じ事と知るべし近來は卷煙草も行はるゝ事なれば右の位置に準し相當の盆の上に火入灰吹卷煙草入の三品を程能く排置して出すも妨なかるべしさて之を出さんとする時は灰吹の中に少許の水を注ぎて出すべし是れ吹殼の直に消えて煙を出さゞらしめんが爲なり

出し方　左右の手にて煙草盆を持ち靜に立ち上りて歩み出で客の座より三尺程手前に跪き(若し客人最貴の人ならば四尺程手前に跪きさて後二膝三膝ほど膝行して進み出づべし以下之に準ず)正面よき程の所に置き左右の手の平を上に向け指先にて少し許り推し進むべし此時客人若し會釋あらば速に二膝程引きて相當の挨拶すべきは勿論なり斯の如くして後膝の前に兩手を突き正面座の時は上の方より側座の時は下の方より手と膝とを一同に引き次に他の方の手及び膝を引き又最初の手及び膝を引くべし始め左右の手及び膝を引きたるは客の前餘り接近したる所にて立つは無禮なるにより少し避けたるなり次に一度引きたるは立たんと欲する方に向くべき便利を與へたるなり斯くして靜に立ち上りさま背の方に向きて歸るべし

受け方　最上の貴人ならば答禮をするに及ばざれども同輩は勿

論假令其身分尊くとも答禮するを可とす就きては左の件に注意すべし

給事の人先方の家族なる時

此場合には膝の左右に手を突き煙草盆を推し進められたる時頭を下げてそと挨拶すべし但し拜禮の時の如くてと〻しく禮をするに及ばず

給仕の人召仕の者なる時

此場合には時宜に由るべしろは己れ若し主人と物語し居たらんには別に挨拶するに及ばずと雖も若し然らざる時は只聊頭を下げて氣色ばかり會釋するを可とす

此心得は單に烟草盆のみにあらず茶菓子は勿論其他大方の物に對して略同じことなれば以下特別の場合にあらざれば受け方を略するものとす

引き方　引く時は進退の部に述べたる如く左右の手を膝に置きて歩み出で凡う四尺ほど手前にて跪き先づ左右の手を一同に進め後に膝を左右と進み出でさて後兩手を伸べ指先を煙草盆の手前の兩側に當てゝ引き寄せ持ちよき程の所に至りし時持ち出でし時の如く兩手にて取り上げ向かんと欲する方の膝より三膝引きて後靜に立ち歸るべし

第一　火鉢

火鉢には角火鉢、桐火桶、獅嚙火鉢など種々あり大なるは二人にて小きは一人にて持ち出づべし

出し方　角火鉢ならば先づ火鉢の兩側の手掛に四本の指を掛け大指を緣に掛け胸より少し下の方に持ちて歩み出で三尺程手前に跪きて客の前に置き少し推し進め手及ひ膝を三度引きて立歸ること煙草盆の時の如し桐火桶其他丸火鉢などにて手を掛くる

所なきものは底より兩側に掛けて持つこと煙草盆の如くして持ち出づべし火鉢大きく又は重くして一人にて持ち出で難き時は二人向ひ合ひて之を横に持ち身體は斜にして歩み出で三尺程手前に跪きて之を程よき位置に置き左右の端を二人同時に推し進め三度引きたる後向ひ合ひて立ち歸るべし

又獅嚙火鉢の如く三つ足の物は足二本ある方を客の方に向くべし火箸は角火鉢ならば客の手前に右を頭にして横たへ丸火鉢ならば右手の向ひに突き立て置くべし

引き方　引く時は烟草盆と同じ心得にて宜し但し火鉢は重きものなる故烟草盆よりは少し手前近く引き寄せて然る後持つも差支なし大なる火鉢を引かんとする時は遲速なきやう二人并びて進み出で同時に跪きて同時に進み出で火鉢の兩側に手を掛けて同時に引き寄せ持ち出でし時の如くにし二人向ひ合ひて下座の

方に捻りて立つべし[illegible]
炭の置き方　炭取に火箸及び羽帚を添へ兩手にて持ち出で邊り
に灰の立たぬやう靜に置くべし古法には貴人の前にて炭を置く
は手して置く作法あれども今は火箸を用ゐて苦しからず但し古
法には豫て油にて炭を拭ひ置く作法あり徒然草に八幡の御幸に
供奉の人淨衣を着て手にて炭をさゝれければ或有識の人白き物
を着たる日は火箸を用ゐる苦しからずと申されけりとありされ
ば古へと雖も猶火箸を用ゐしては知られたり今の世抹茶の炭の
時に炭一つ手にて置くも古法の姿を學びたるなるべし炭を置き
終りたる時若し邊りに灰の立ちたる時は羽帚にて徐に拂ふべし

第三　茶

茶器　茶碗は大小形容種々ありて一樣ならず茶臺も亦種々あり
即ち普通茶臺、腰高、茶托等なり腰高は蓋附にして名の如く腰高し

普通に用ゐるものは蓋なきを常とす茶托の形も種々にして是又
一定せず茶托は元來支那にて行はるゝ煎茶式に用ゐるものなれ
ども當時は我邦にて一般に用ゐらるゝものなれば今此所にも掲
げつ
出し方　第一腰高の茶臺に載せたるものより述ぶべし先づ茶を
出すには茶を茶碗の半程に注ぎ臺に載せ蓋をし兩手を鍔の下よ
り腰に掛けて持つべし決して指を鍔の上に現はすべからずさて
之を胸の邊に捧げ徐々に歩み出で客座の三尺程手前に跪き茶臺
を己が膝の前に置き左の手を茶碗の側面に當て右の手に蓋の把
手を持ち靜に取りて茶碗の右側の鍔の上に仰向けて斜に置き兩
手を伸ばして客に捧ぐべし斯くして客の取られし時は其儘臺を
引きて膝の前に置き蓋を茶碗の座の上に載せ始の如く兩手に持
ち三膝引きて立ち歸るべし客若し茶碗を取らざる時は臺の儘客

の前に置きて立つも妨なし右の如く左手を茶碗の側面に當つる所以は茶の湯氣にて蓋の茶碗に吸ひつくをあらんに何の注意もなく蓋を取る時は茶碗ごめふと上りて思はざる過を仕出す虞あり故に手を當てゝ茶碗をして動かざらしむるなり蓋なき茶臺ならば跪くと共に客に進め客取りたらば其儘臺を持ちて歸るべし茶托にて出す時は左の手の指の上に載せ右の手を托の下より添へて持ち出で茶托と共に客の前に置きて歸るべきなり

引き方　兩手にて空の茶臺を持ち出で四尺程手前に跪き茶臺を膝より斜に右の方に置き靜に蓋を取りて臺の右傍に置きさて兩手を突き一進みして兩手にて空の茶碗を取り右に臺の方に斜に向き茶碗を載せ蓋をして兩手にて臺を持ち三膝引きて立ち歸るべし蓋なき茶臺の扱方も之に準じて心得べし

又茶托にても進退は替ることなし只出したる時の如く托の儘に

て持ち歸るべきなり

第四　菓子

器物　器物には種々あり或は緣高に盛りて三方或は足打に据うるもあり或は高杯に盛るもあり或は塗物又は陶器製の相當なる器に盛り臺或は盆に載せて出すもあり其客の種類場合及び家の品位等によりて一定せず又客をして持ち歸らしむるに便利なる爲め紙を筋違に二つに折りて相當の盆に布き之に菓子を取りて出すこともあるなり

出し方　臺或は盆に菓子を盛りたる器を載せ相當の箸又は楊枝を添へ客の方に正面の向くやうにし兩手に捧げて持ち出で客前三尺程手前に跪きて之を客の前に置き手を伸べて指の先きにて少し推し進め然る後手膝と一同に三度引きて歸るなり

受け方　菓子を出されたる時は煙草盆の時記しゝ如く手を膝の

左右に突きて一禮すべし主人より勸めらるゝ事あらば靜に懷紙を出だし蒸菓子ならば二つ折にし干菓子ならば四つ折にして左の手に持ち楊枝或は箸にて取り之を元の位置に置き蒸菓子ならば兩手に持ち紙ながら割りて邊りにこぼれぬやう注意して食ふべし尤も羊羹葛餅の如く紙にて割り難き物は楊枝或は箸にて押し切りて食ふべし又大豆粉餅小豆餅の如きものは別に取り分くるに及ばず直に器を取り上げて食ふべし干菓子は取り分けたる後手にて取り上げて食ふべし大なるものならば手にて善き程に折りて食ふを可とす

總べて菓子の種類多くとも其種類を殘らず取るものにあらず二三種取りて止むべし且つ意に任せて幾度も取るべきものにあらず一旦取りたる物を若し食ひ終らぬ時は其儘紙に包みて持ち歸るべし又核あるものは紙に包みて袂或は懷にするを可とす皮核

などを食ひ荒したる儘殘し置くは宜しからず

引き方　手を兩膝の上に垂れて靜に歩み出で客前四尺程手前に跪き一進して後菓子器の兩端に指先をかけ聊引き寄せ然る後持ち出でし時の如く兩手に捧げて上座より三膝引きて靜に立ち上りて歸るべし

附　以上諸具置の排置

來客ありし時先づ供すべき一通りの物は右に擧げたる品々なりとすさて此品々の出し方引き方等は已に述べたる如くなれども其位置の事に就きては未だ一言も及ばざりき由りて今此所には其排列の事に就きて聊述ぶる所あるべし

來客已に席に着きたる時は冬ならば先づ火鉢を出だし次に烟草盆を出だすを可とす又夏ならば先づ烟草盆を出だすべし次に茶次に菓子とす尤も火鉢を出だす時は烟草盆を略する事もあれば

其時は火鉢の次に茶を出だすと心得べしさて冬季に於ける排列を述べんに先づ火鉢を持ち出でゝ客の左の方に置き次に烟草盆を持ち出でゝ正面に置き茶は之と排べて其右の方に置くべしさて菓子を持ち出でし時は先づ之を上座の方に斜に向けて置き次は一進みして先づ茶を取り下げて斜に下座の方に置き次に烟草盆を取りて少し客の右の方に寄せ菓子を取りて正面に据ゑ下げたる茶碗を持ちて常の如く靜に立ち歸り然る後再度の茶を進むべし此時は茶は菓子と烟草盆との間に置くべし若し其餘地なき時は菓子を進めし時の如く茶を上座の方に置きて烟草盆を猶聊片寄せ然る後に茶を進むべきなり

第五　書籍

書籍を來客の覽に供せんとするにも又は長者に呈するにも左の出し方に由るべし

出し方　書籍を出すには字頭を向うにして即ち我が讀むやうにして兩手にて持ち胸の邊りに捧げて持ち出で程よき所に跪き一二冊ならは其儘左の掌に載せ右手にて右の向角を取り字頭の我が前になるやう右の方に取り廻して下に置き少し推し進めて進らすべし冊數多き時は持ち出づると其儘下に置き右手を右の向角にあて左手を左の手前角に當て右に取廻し先方の膝の前に置き其儘少し推し進めて進らすべし

見方　人の家に行きし時書物など出だされたる時は主人へ挨拶せし後徐に取りて見るべし且つ其書物の大意を知らんには先づ序文を見然る後本文の始終を見る時は其概略を知ることを得べし又相客數人ある時は先づ次席の人に讓るべし次の人若し猶讓りて己に返す時は會釋して後之を取り上げ前にいひたる如く始中終と一二枚づゝ見然る後次に廻すべし同席者ある場合に己獨

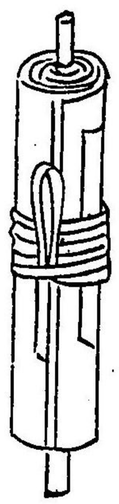
り長く見るは次の人に對して無禮なり册數多きものは互に挨拶して一册づゝ見るもよかるべし

引き方　例の如く進み出で二三尺手前に跪きて一進みし兩手をかけて少し引き下げ其儘に持ち歸るべし歸る時は殊更に持ち出でし時の如く取廻すに及ばず

第六　卷物

出し方　卷物は書物と同じく己が方に向け左の手にて竪さまに中程を持ち右の手にて手前の方の軸の所を持ち添へ例の如く靜に歩み出で程よき所に跪き向うの軸を右手にて取り順に廻して進らすべし先方の人長者なるか貴人なるかの場合には卷物を解きて見せ參らすることもあるべし其時は跪くと共に正しく座し卷物を横さまに取り直し右の手にて結緒の端を取り右さまに引き紐を解き捨て然る後下に置き紐を取りて表紙の端に上より外に

出だし再び之を内に納むるか又は只輪がねたる儘にて表紙に卷き込むもよし斯くして書或は畫の何れにても觀るべき所まで表紙を卷き然る後右手を上の方にあて順に取り廻して其儘先方の膝の前にて少し右によりたる所に置き靜に解き開きて見せ進らすべし終りたる時は其儘取り下げ己が前にて取り廻し下に置きたるまゝにて卷き納め右の手に取り上げ左の手に持ち替へ卷き納めたる端を己が方に向け紐を緩れざるやうくるくと卷き其端をゞ表紙の端づれにて卷きたる紐に挾み置くべし紐の挾み方は種々あれども最も簡單なるものは次の圖の如し



卷き納めたる後持ち出でし時の如くに持ちて立ち歸るべし若し又數卷ある時は小蓋に載せて持ち出て下に置き書物を進めし時

の如く取り廻して進らすべし

見方　巻物を出だされたる時若し主人と談話中にて其話に關係なき物ならば只輕く會釋するのみにて先方の人の置くに任すべしと雖も若し又其談話に關するものならば出だされし時靜に受けて直に開き見るべし開き方は出だし方の所に云へる如く巻物を横に持ち結紐を解き下に置き紐を表紙の中に巻き込みて少しづゝ繰り廣げて順に見るべし相客などあらば其方に向けて共に見るべし己れ獨り專ら見るべからず若し又先方の人巻物を開きて見せらるゝ時は己れ自身にて見るべきやう挨拶すべし然るも猶聽かれざる時は兩手を突き謹みて見るべし見終りたらば叮嚀に挨拶すべし

第七　色紙短冊

色紙短冊の出し方は貴人の召さるゝ折も賓客に染筆を請ふ折も又は古人或は名高き人の書きたるものを見する折も其場合は種々ありて一様ならずと雖も其出し方及び引き方に就きては何れも同じことゝ心得べし

出し方　色紙或は短冊を小蓋に載せ頭を向うにして持ち出で例の如く跪きたる後下に置き冊數多き書籍を扱ひし時の如く順に取り廻して頭を己が方にし兩手に取りて人の前に置き少し推し進めて膝を三度引きて立ち歸るべし

又色紙短冊を一時に出す時ハ色紙の上に短冊を重ね前の如くして進らするなり

見方　人の書きたる物を出されたる時は主人に會釋して後靜に小蓋を引き寄せ左右の手にて色紙或は短冊を取り上げ見終りたらば元の位置に置きて會釋すべし又數枚重ねられたる時は先づ上の物より一枚づゝ取り見たる後は之を上座の方に置き順次見

終りて後元の位置に返すべし扱ひ方は何れも鄭重にするを要す
己れ書く時の扱ひ手も大方之に準じて心得べし
引き方　例の如く進み出で一旦跪き更に一進みして後左右の手
にて少し引き下げ然る後常の如く兩手に持ちて退くべし色紙短
冊も書物と同じく退く時は取り直すに及ばず其儘持ち歸りて差
支なし

第八　料紙硯箱

出し方　硯箱を己が方に向け料紙を箱の下に重ね兩手にて持ち
出で人前程よき所に座し持ち出でたる儘にて己が左の方に置き
(左の膝より猶少し左に置くべし)次に紙のみを殘して硯箱を取り
中央に置き次に蓋を取りて右の方に列べ置くべし(蓋の裏に蒔繪
などある時は裏を上に向け否ざる時は取りたる儘に置くなり)さ
て後左手を突き右手にて水入を上より取り左の手に持ち右の手

にて拇指を上にし食指を下にして持ち硯に水を注ぎ又左手に持
ち右の手に取り直して元の位置に置き右手にて上より墨を取り
左の手を添へ磨るべきやうに持替へ靜に磨るべし磨り終りたら
ば元の如く左手を添へ墨を持ち替へて前の位置に納むべしさて
後右手にて筆を取り左手に持ち替へ右手にて筆笠を取りて之を
箱の中の片脇に置き筆を右手に持ち替へて書きよき程に濕し先
づ箱を右の方に順に取り廻して人前に進むべし其位置は聊人の
右の方に寄するを可とす次に紙をも取直して硯の左に排べ置き
蓋をも取り直して硯の右に置くべし
右は古來定りたる仕方なれども今便宜に從へば料紙は硯箱の上
に載せて持ち出で箱を己の前に置き先づ紙を左に取り除け蓋を
右に取るもよし又都合によりては紙を前に取り除けず蓋に載せ
たる儘にて箱の左の方に排べ置くも可なり是最も簡便なる方法

なり

受け方　貴人及び長者ならば只人のするが儘に任せ置くもよろしけれども若し同輩或は聊の身分の違ひならば人のするに任せて己は何事もせぬは甚しき無禮なるべし故に硯を進められし時は叮嚀に會釋すべし已に使用し終りたらば筆を納め蓋をして先方の人の持ち歸るに便利よきやう彼方に向け少し推し進めて會釋すべし

引き方　例の如く進み出で程よき所に座し先づ蓋を取り下げ己が方に向くやうに取り廻して右に置き次に料紙を取り是亦取り廻して左に置き最後に硯を取り下げ中央に置きて取り廻すべし筆若し硯箱の縁に掛けたれらる時は之を中に入れ蓋をして紙の上に箱を載せ持ち出し時の如くして立つなり又紙を蓋の上に載せて進めし時は取り下す時も蓋紙共に取り下して己か右の方

に置き然る後硯を下して蓋をすべし

第九　刄物

小刀

小刀には種々の類あり在來の小刀に就きていふも鞘あると鞘なきとあり又近き頃は西洋小刀などもありて一樣ならず且つ其品の高下形の大小等種々あれども之を扱ふ方法は大方同じ事なり

出し方　小刀は柄を手前にし鞘を向うにして、左の掌に載せ右手を添へて持ち例の如く徐に歩み出で程よき所に座し鞘を我方に斜に向け左手にて柄を持ち右手にて上より鞘を持ちて之を拔き放ちて右の側に置き然る後右の手にて柄口を持ち己が方に刄の尖を向け左の手を右の腕に添へて進らせ次に鞘を取りて之を客人の右の方にさし置きて起つべし客若し直に受け取らざる時は少し右の方にさし置き鞘を其側に並べ置きて歸るべし但し鞘な

き物も之に準じて心得べし西洋小刀は直に用ゐらるゝやうに刄を現はし然る後前の如くして進むべし

引き方　例の如く歩み出でよき程の所に跪き一進みして右の手を伸べ客人の置かれたる小刀を取り持ち出し例の如く取り直して徐に立ち歸るべし鞘ある物は先づ鞘を取り下げ後に小刀を取り左の手に移し右の手にて鞘を取り靜に納め前の如く持ちて歸るなり西洋小刀も同じく刀身を元の如くに納めて立つべし

剪刀

剪刀にも種々の形あり花剪刀、西洋剪刀、及び普通に用ゐるものとす

出し方　剪刀は尖を向うにし左の掌に載せ右手を添へて持ち出で客前に跪き一進みしたる後尖を我方に取廻し少し右の方に寄せてさし置くべし但し何れも盆に載せて出すは最も鄭重なる扱

ひ方と知るべし

引き方　普通の剪刀は例の如く客人の前に跪きし後一進みして右の手を伸べ剪刀の中程を取り持ち出でし時の如く取直して立つべし西洋剪刀及び花剪刀は左右に開き易く且つ又甚だ重きを以て能く注意して取扱ふべし又盆に載せたる時は菓子盆等の扱ひに準じて心得べし

第十　扇子及び團扇

團扇は素支那より來れるものにして古昔より之を用ゐたりき(現今は其形の大に變化し居ることは勿論なり)其後に至り我國にて今の摺扇を創造したるなり始は檜にて之を造り男女共に之を用ひたり女子は特に種々の裝飾を施して其美を盡したること古來諸書に見えたるが如し而して其用たる風を起し冷を取る具たるのみならず專ら之を以て姿容を優雅にする用に供したりき男子

は上古に在ては朝庭等の尊所に於ては之を用ゐる事を制禁せられたりしが其後に至りては却りて之を以て禮式に缺くべからざる具として一般に用ゐらるゝに至れりそは中古の諸書に扇子を笏に執りて云々などいへるを以ても之を證する事を得べし武家の世になりては貴人の前に出づる時は必ず之を次の室に置くことゝし腰にさしたる儘にて貴人に對するを以て無禮とせり斯く世々に於て其作法異りしかど貴人の前にて使ふとは上古中世ともに之を禁じたるは異ることなし但し配膳などの時は落ちこはれたる物などを扇に据ゑて退く事もあれは配膳には之をさすも苦しからざるよし貞丈雜記に見えたり今は一定したる法式なければ何所へさし行くも妨なけれども貴人の前にて使ふことは猶憚るべきことなり

出し方　扇子は要を手前にし竪さまに左の掌に載せ右の手を添へて持ち出で客前程よき所に座し取直して要を客の前に向け頭を己が方に向け右手にて中程を持ち前にさし置くべし

又扇面の書畫など人に見する時は先づ開きて後取り廻して要を客の方に向け右手にて扇面を支へ下に置きながら右手を引きて推し進むべし

團扇も亦扇子と同じ形にして持ち出で一進みしたる後右の手にて柄を客の方に取り廻し團扇面を右手の掌に載せ手前の端に左手を添へ平に客の前に置き右手を引きて進らすべし若し又數人の客に進むる爲に四五本を合はせて持ち出づる時は重ねたる儘左の掌に載せ右の手にて柄を合はせて持ち出で上座の方に置きて上席の客より一人〳〵に參らすべし

受け方　扇子團扇などを出されたる時はそと會釋して之を受け餘り音のせぬやう且つ目に立たぬやう下の方にて靜に使ふべし

扇子に物を載せ出し方　扇子に物を載せて人に進むるには載すべき品物の大小によりて或は五間或は七間或は九間といふやうに扇子を開き品物を其上に載せ右手にて要の所を持ち左手にて手前にある親骨の先を持ち靜に出でゝ跪き左手を突き一進みして後再び左手を添へて進らすべし

客已に其物を取られし時は少し下りて直に扇を疊み扇を進むる時持ち出でし時の如くに持ちて起つべし扇の疊み方は右手にて要の所を持ち左の指を骨の間に入れ一間づゝ疊むものなり

進らすべき品物若し重きものならば左手を地紙の下に入れて持つべし此場合には跪きたる時左手を突き進むに及ばず直に座して進らすべし又場合によりては客前に跪きたる時物を載せたるまゝ扇子を客の膝の前にさし置き會釋して進らするも妨なし

品物受け方　扇子に品物を載せて出されたる時は場合を見計らひて直に品物を受くるもよし又下に置かれたる時は扇の儘之を受け先づ品物を取り少し推し戴きて後鄭重に片方に置き扇子を取りて靜に疊み先方へ要の方を向けて之を返し厚く禮謝を述ぶべし

第十一　碁盤及將棊盤

碁盤

出し方　先づ碁笥二個を盤の上に列べ置き兩人相向ひて持ち下座の方より出で主客の座の中央に据え客の方の者正面に向ひ少し推し進めて進らすべし若し貴人ならば碁笥を取り下し一人は膝行して人の背を廻り其人の右手の方の臺の際に置きて猶膝行して元と跪きし邊まで引き下り然る後常の如く立ちて歸るべし今一人は只碁笥を取り下し盤の傍に置きて立ち歸るべし石は白きを客に進らすべし

受け方　碁盤を出されし時同輩ならば客は主人に白き石を讓るべし主人固辭したる時は會釋して白を持つべし若し又始より其手練を知り居る時は上手なる方白を取るべし併し如何に上手にても貴人に對する時は先づ白を讓るべし

引き方　二人並びて例の如くに進み出で碁笥を取りて盤の上に置き上席の者盤の左右の足に兩手をかけて少し引き下げ持ち出でし時の如く兩人にて持ちて歸るべし

將棊盤

出し方　先づ箱を盤の上に置き左手を盤の下に入れ右手にて木口を持ちて出で主客の席の中間に置き少し進めて立ち歸るべし

受け方　主人は客に點なき王を進らせてさすを禮とするなり

引き方　例の如くに立ち出で一進みして後左右の手にて足の所を持ち少し引き下げ然る後始めの如く持ちて歸るべし

第十二　樂器

樂器の種類は其數多く從ひて之が扱ひ方も亦同じからずと雖も其概略を知る時は略類推することを得るものなれば今左に二三の例を擧けて參考に供せんとす詳細なることは他の物品取扱ひの方法に照して適宜に取り扱はむことを要す

琵琶など總べて絲の物は概略調子を合はせて出すを可とす己れ其道の心得なき時といへども柱、駒等を立てゝ出すべきなり

琵琶

出し方　琵琶を人に進むるには撥を撥面にさし己が彈くやうにして左手に琵琶首の所を持ち右手にて撥面の下方を抱へ人前に跪きて琵琶を下し眞直に立てゝ撥面を此方へ向け替へ右手にて琵琶首を持ち左手を胴の下邊に添へ少し我右の方に傾け人の彈くに便り善きやう取りなして進むべし

受け方　琵琶を出されし時は會釋して先づ左の手を出して琵琶首を取り右の手を胴の下邊に當てゝ少し引き寄せ撥を取り調子を試み然る後に彈ずべし終りたる時は撥を元の如く撥面にさし靜に膝の前に横たへて置くべし

引き方　彈し終りて下にさし置かれたる時は例の如く跪き一進みして右手にて琵琶首を持ち左手を胴の下邊に添へ少し引き下げ其儘持ちて我が膝の前に置き一旦立てゝ初め持ち出でし時の如く取り直し三膝引きて立ち歸るべし

琴

出し方　琴は先方の人の彈かるゝに便りよきやうに向け右手にて其中程を下より抱へ左手にて龍舌の所を持ち歩み出でゝ程よき所に置き足の所を少し推し進めて參らすべし

爪は豫て袋の儘懷中して出で少し斜に右の方に向ひて取り出し

袋の口を解き出しよきやうにして人の右の方に置きて進らすべし若し爪箱ならば蓋を開きて進むべし先方の人若し貴人からば爪は別に臺に載せて進らするを可とす

受け方　琴を出されたる時は會釋して彈くに程よき位置に引き寄せ豫て爪を用意せし時はそれを懷より取り出して用ゐるべく然らざる時は猶一應挨拶して然る後出されたる爪をかけ靜に調子を試みて後彈ずべし終りたる時爪は己の物ならば其儘懷に納むべしと雖も先方の物ならば叮嚀に袋或は箱に納め元の位置にさし置くべし

引き方　例の如く跪き少し左に斜に一進みして先づ爪を取り之を前の如く懷に納め然る後正面に向ひ琴の足に手をかけて少し引下げ持ち出でし時の如くに持ちて立ち歸るべし

笛

出し方　笛は頭を左にし兩手にて歌口より下の方を持ちて出で左手を突き一進みしたる後客の吹かるゝやう歌口を左に向け兩手にて進らすべし但し歌口には決して手を觸るべからず

受け方　笛を進められたる時は左の手にて下より歌口の上の邊を持ち右手にて上より中程を取りて受くべし

引き方　已に吹き終りて下に置かれたる時は例の如く徐に進み出で跪きて後一進みして右手にて取り左の手を添へ持ち出でし時の如く歌口を我左に向けて立ち歸るべし

尺八

出し方　歌口を右にし笛と同じ樣にして持ち出で吹かるゝやう取直して進らすべし但し尺八も亦歌口に手を觸るべからず

受け方　左の手を歌口の下にあて右手にて先方の人の手と手との間を持ち吹くやうにして受け取るべし

引き方　引き方は笛に同じ

三絃及び月琴

出し方　三絃及び月琴の類は撥を胴の所に挾み轉軫の下即ち棹の上部を左手にて持ち右手を添へて持ち出で跪きて之を取直し人の彈かるゝに便りよきやうにして進らすべし

受け方　左手にて棹を受け右手にて胴の邊を抱へ會釋して此方へ引き寄せ調子など試みて後に彈くべし但し何れも場合により ては下にさし置くも妨なし

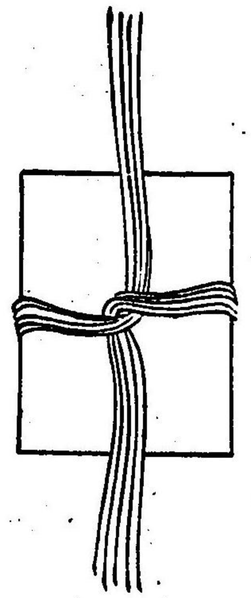
引き方　彈き終りて下に置かれたる時は左右の手にて少し引き下げ右手にて棹を持ち眞直に立てゝ左手にて持ち出でし時の如く持ちて立ち歸るべし

第四章　進物

吉凶等に就きては勿論四季折々の贈物に就きては心得の部に述

ぶるを以て今此所に擧げず只水引の掛け方熨斗の折方等實習に要するものみを以て此所に說き明すべし

水引掛け方　水引は白を以て左とし紅を以て右とす其掛け方は品物の下より上に廻し一結びしたる後飽くまで固くしめ次の圖の如くすべし



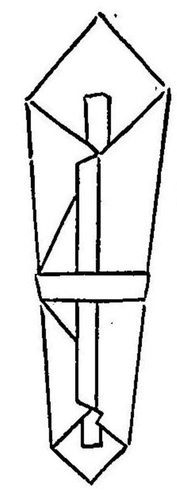
然る後紅を上の方に取りて折返して輪を作り次に上なる白を以て其上に掛けて結ぶべし然る時は水引のもつるゝことなく麗はしく結ぶことを得べし

包み方及び折り方　包紙は總べて二枚を重ぬるを正式とす事によりては表裏の色を紅白金銀等異にすることもあるべし然れども略して一枚を用ゐるも妨なし

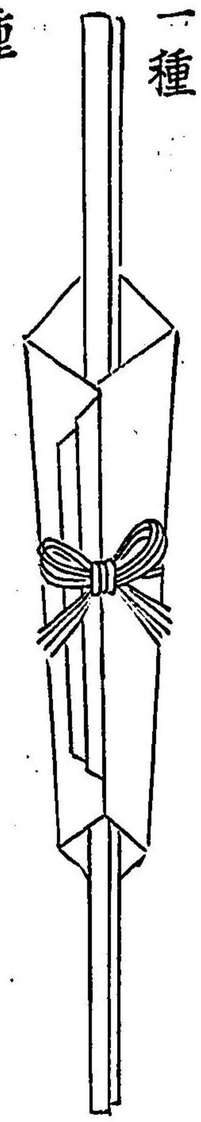
熨斗折り方

熨斗には種々の折り方あり今此所には簡單なる物數種を擧ぐべし

普通熨斗第一種

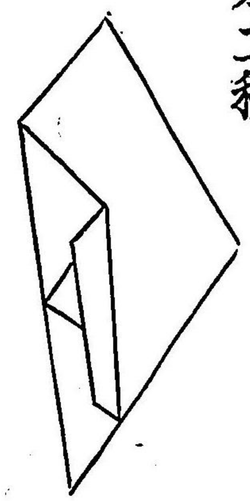


長熨斗第一種

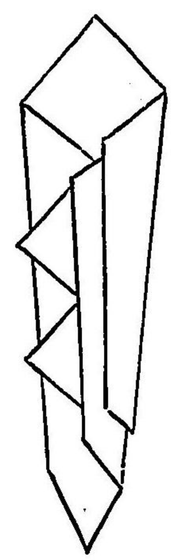


同　第二種

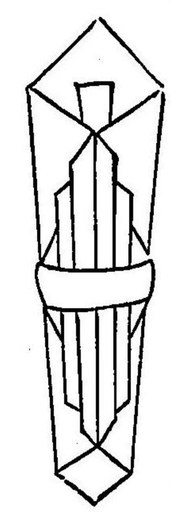
第一圖



第二圖



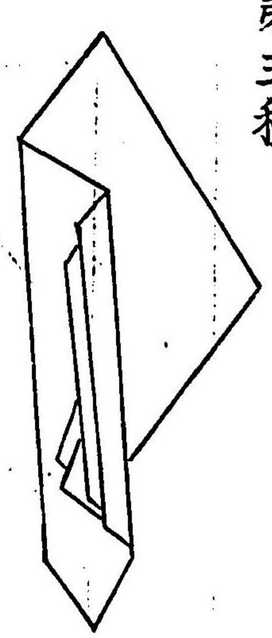
第二種



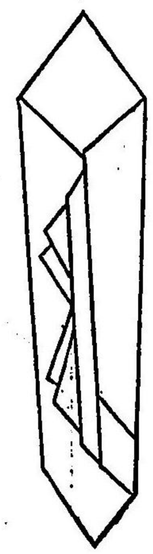
同　第三種

第三圖

第一圖



第二圖



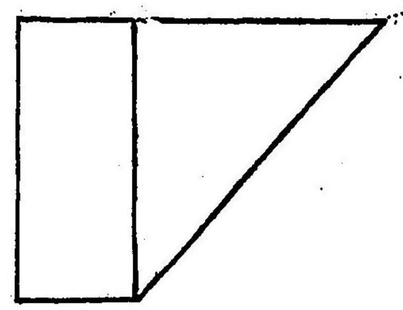
第三圖

塩包折リ方

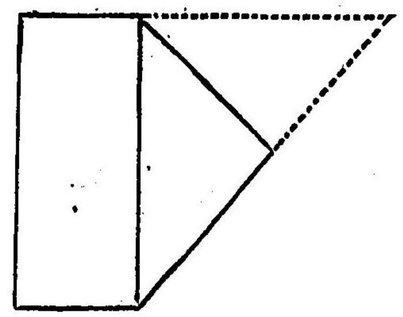
第一種

用紙は半紙、糊入、杉原、奉書等其好む所に從ふべし

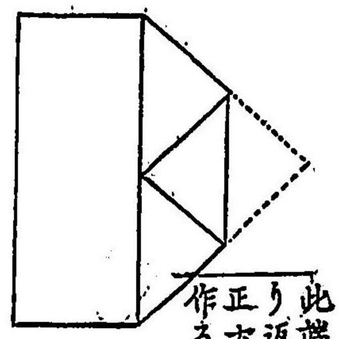
第一圖



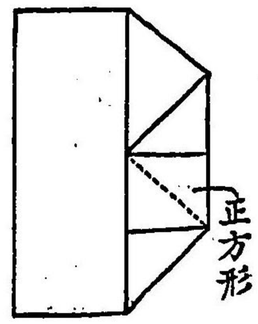
第二圖



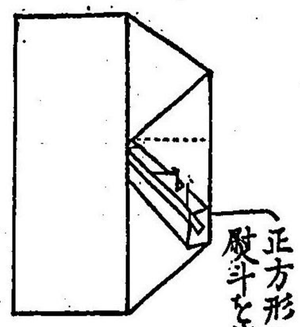
第三圖



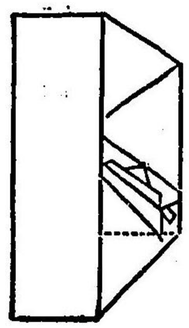
第四圖



第五圖

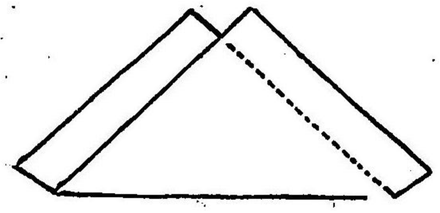


第六圖

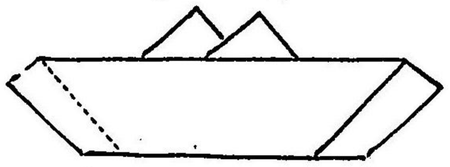


第二種

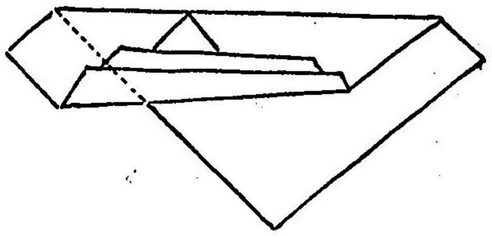
第一圖



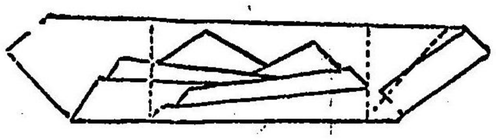
第二圖



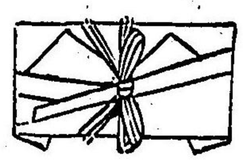
第三圖



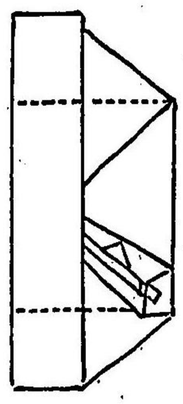
第四圖



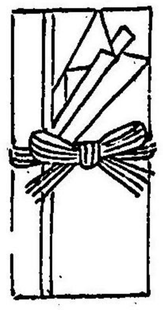
第五圖



第七圖

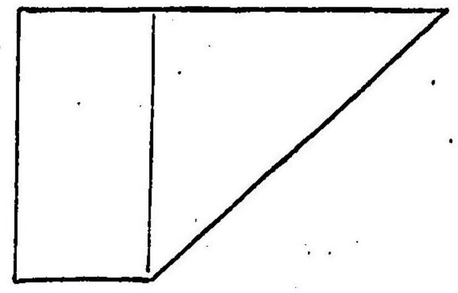


第八圖

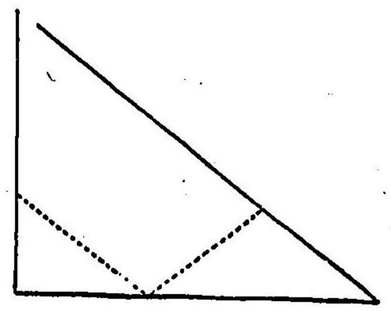


第三種

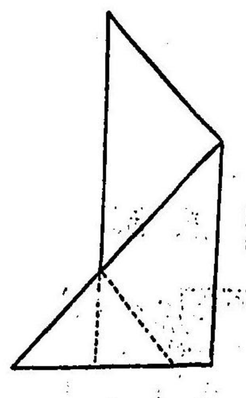
第一圖



第二圖

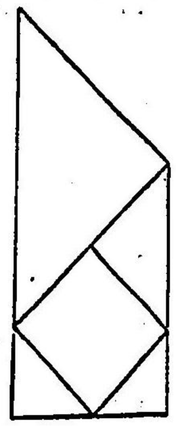


第三圖

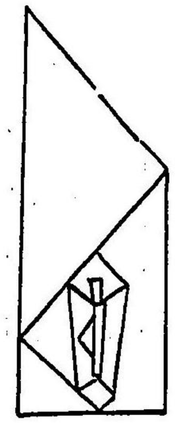


第四種　之ハ紙半枚よて折る方法なり

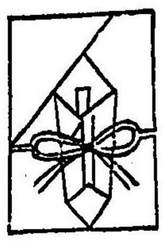
第四圖



第五圖

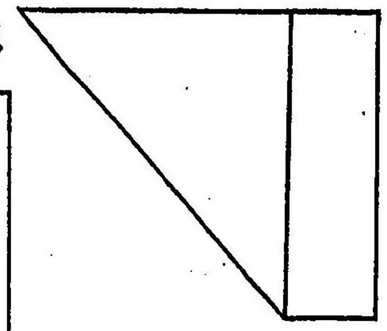


第六圖

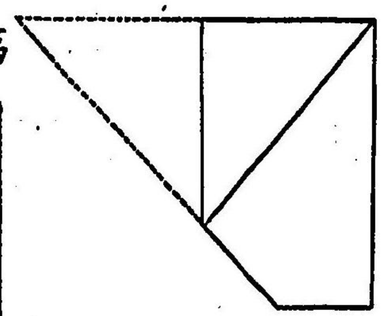


第五種　同上

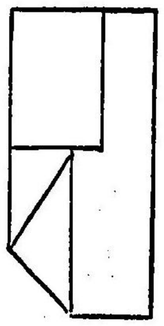
第一圖



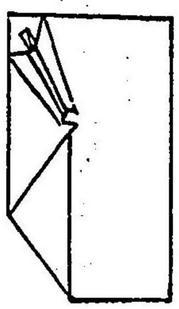
第二圖



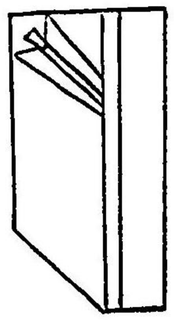
第三圖



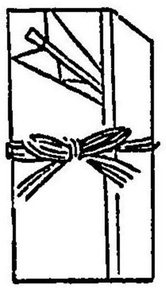
第四圖



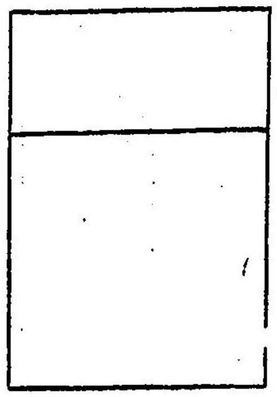
第五圖



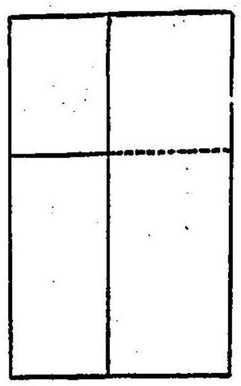
第六圖



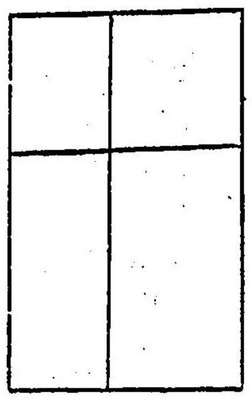
第一圖



第二圖



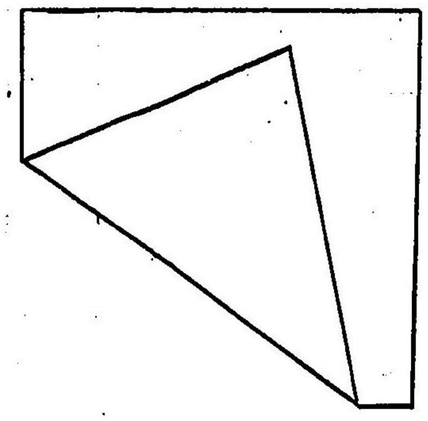
第三圖



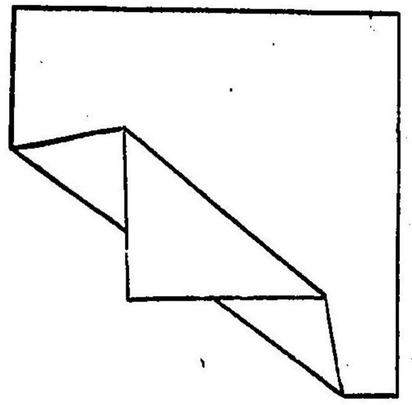
扇包み方

第一種　正方形の紙を以てすべし

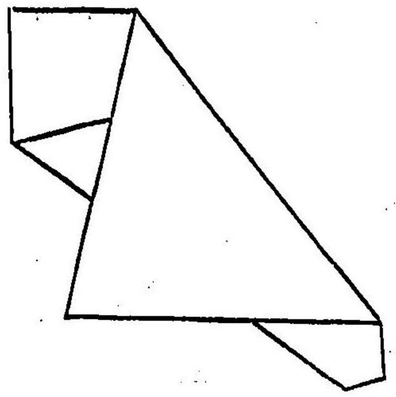
第一圖



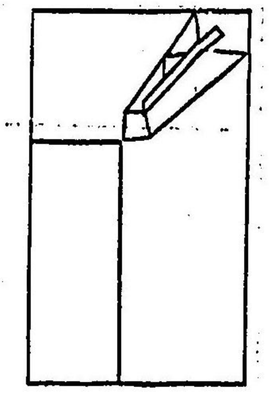
第二圖



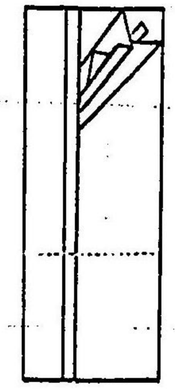
第三圖



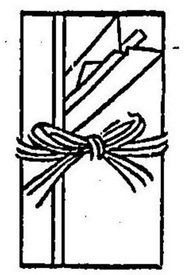
第四圖



第五圖

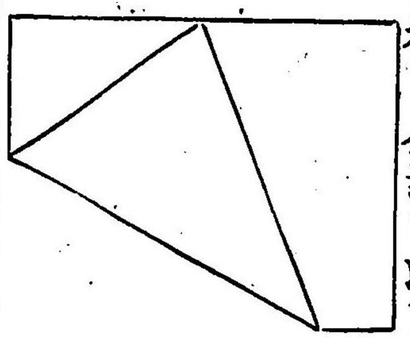


第六圖

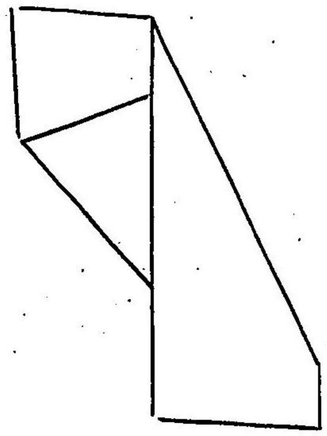


第二種　全紙を以て疊むべし

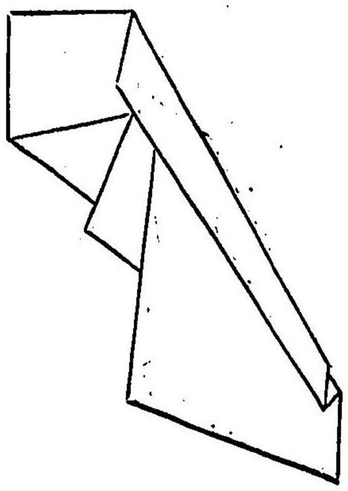
第一圖



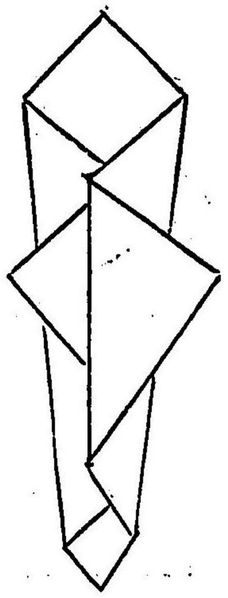
第二圖



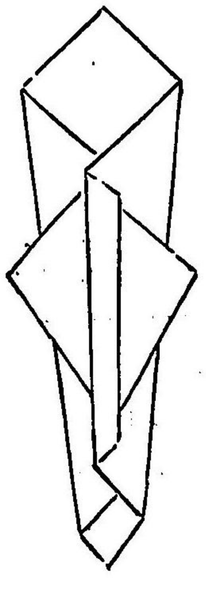
第三圖



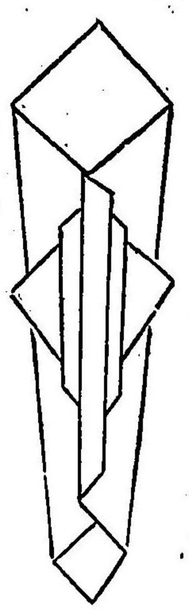
第四圖



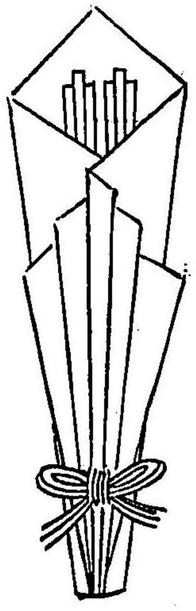
第五圖



第六圖

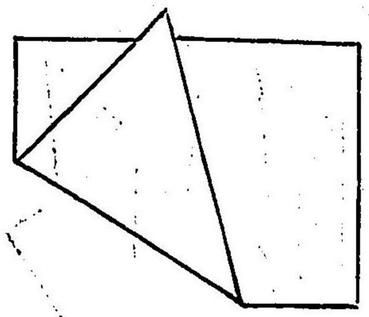


第七圖

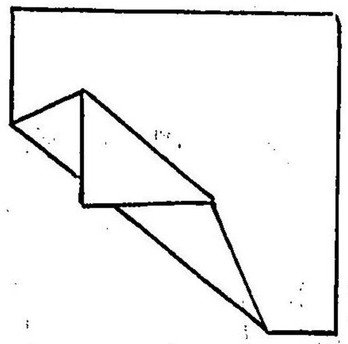


木枝包み方第一種

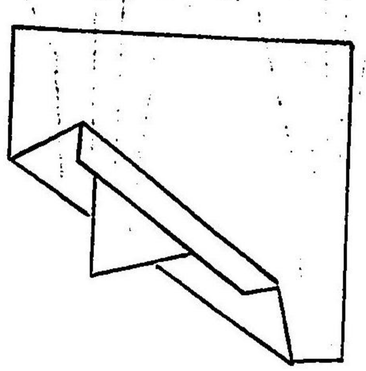
第一圖



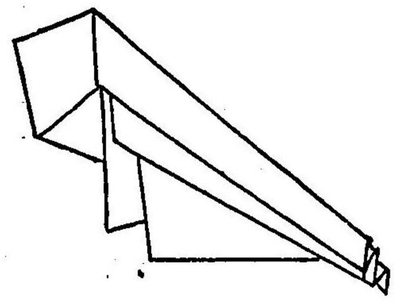
第二圖



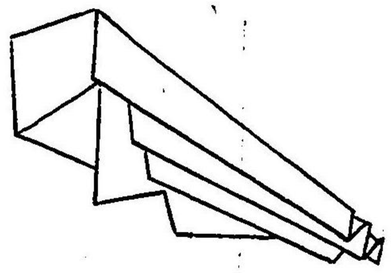
第三圖



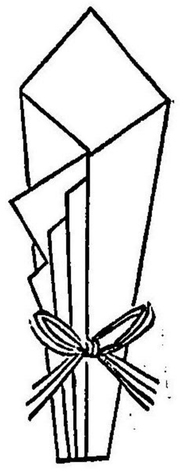
第四圖



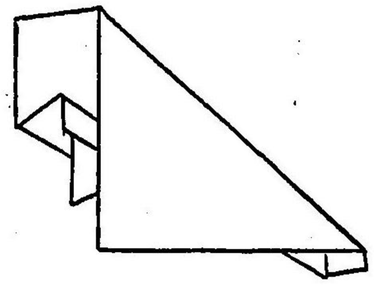
第五圖



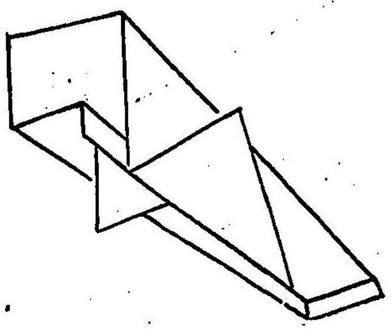
第六圖



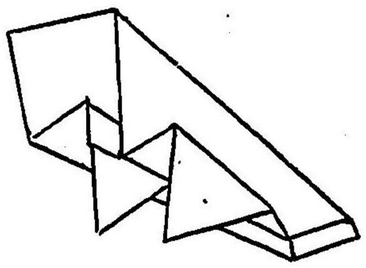
第四圖



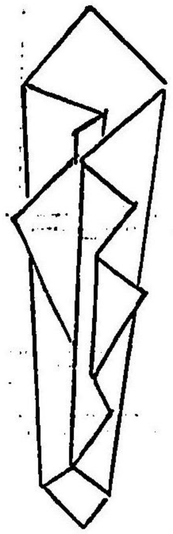
第五圖



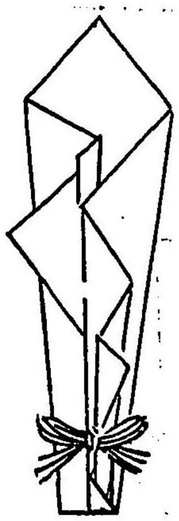
第六圖



第七圖

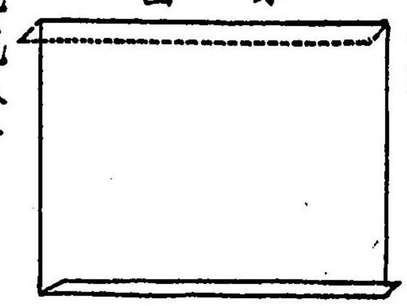


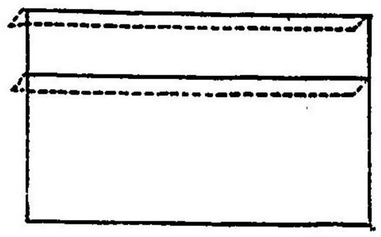
第八圖

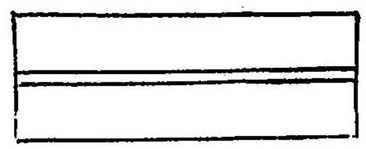


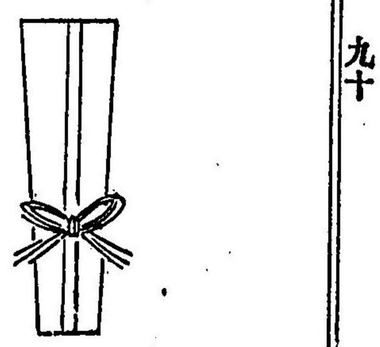
第二種

第一圖



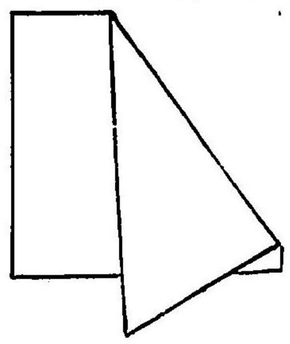




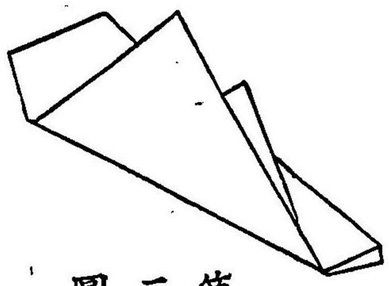


草花包み方 第一種

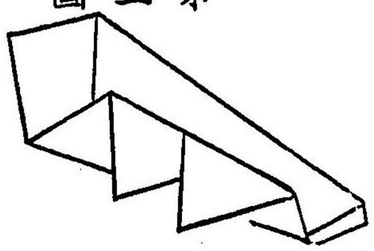
第一圖



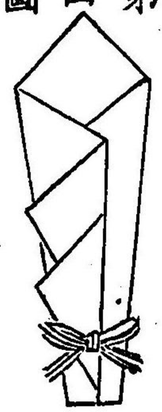
第二圖



第三圖

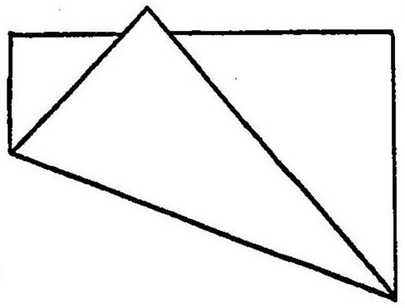


第四圖

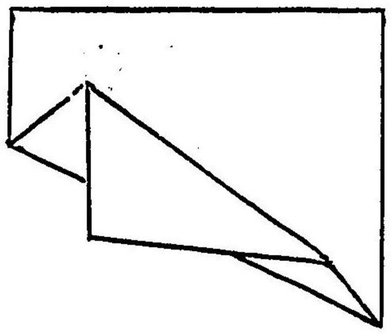


第二種

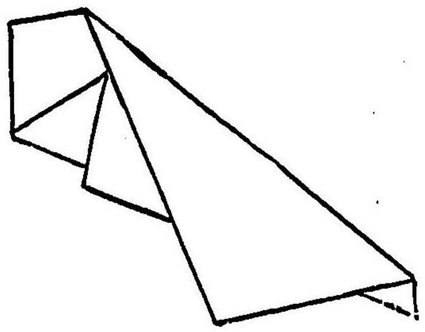
第一圖



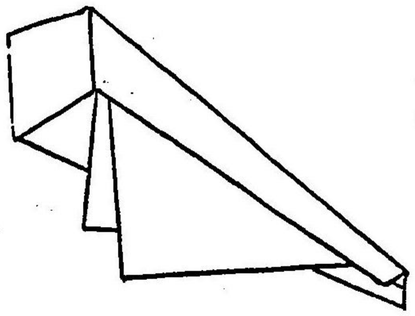
第二圖



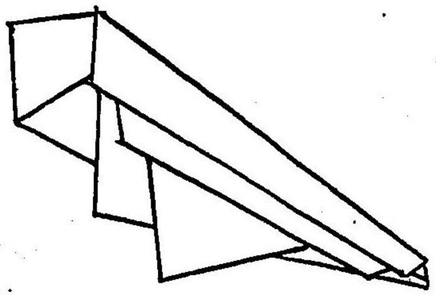
第三圖



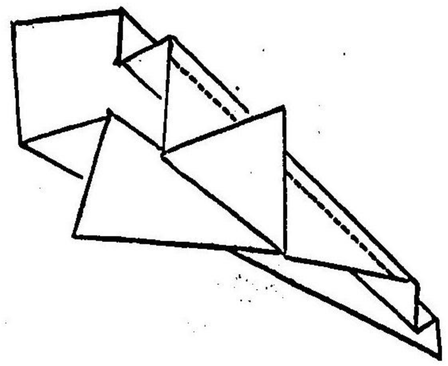
第四圖



第五圖

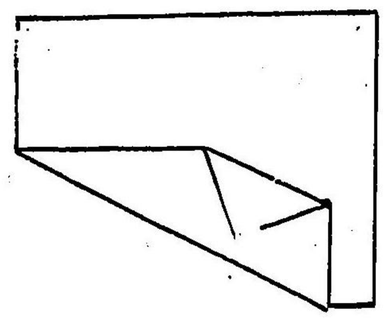


第六圖

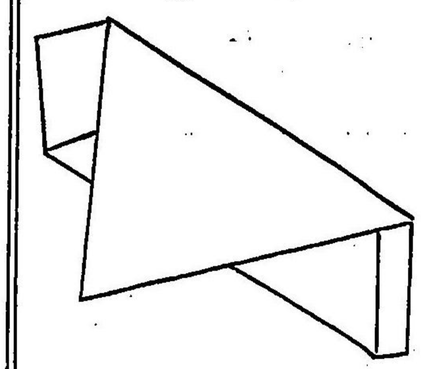


諸品包み方

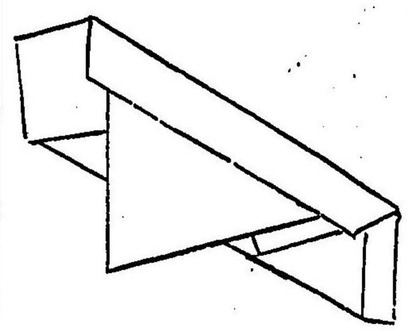
第一圖



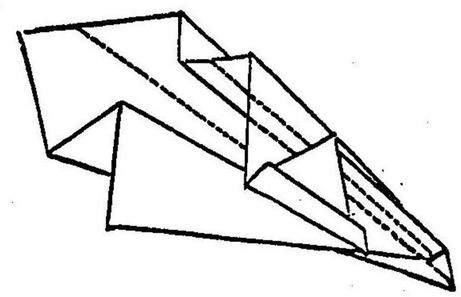
第二圖



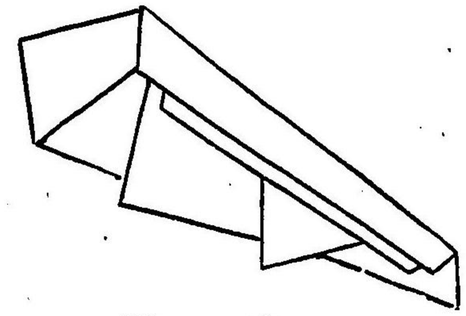
第三圖



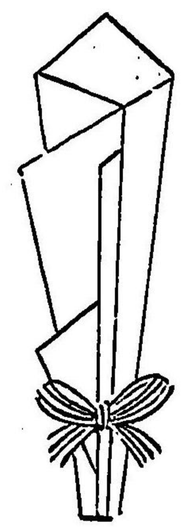
第七圖



第八圖



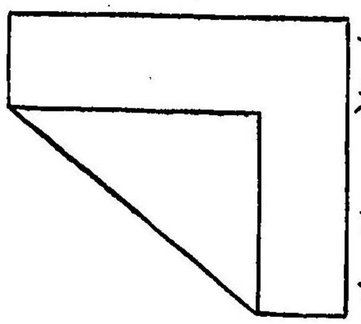
第九圖



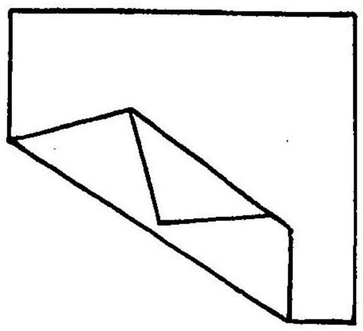
帶及物卷物類包み方

第一種　正方形の紙を以てそべ―

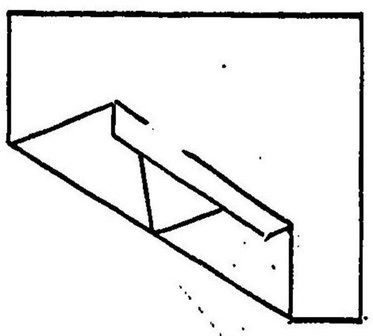
第一圖



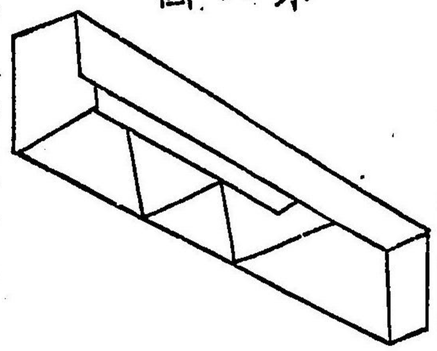
第二圖



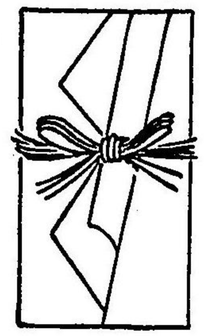
第三圖



第四圖



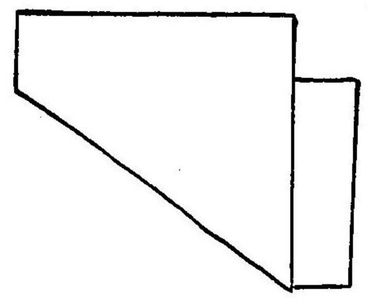
第五圖



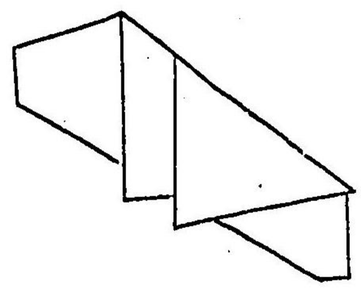
右は短冊、茶杓、黄金、墨、筆、香箸、茶筌、鋏、毛抜き其他何にても右に類するものを包みてよし

第二種　全紙を用ゐるべし

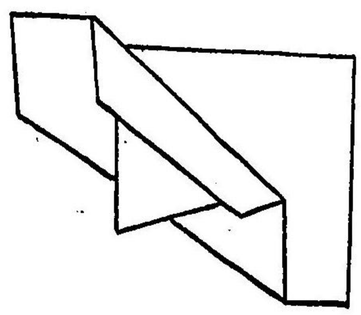
第一圖



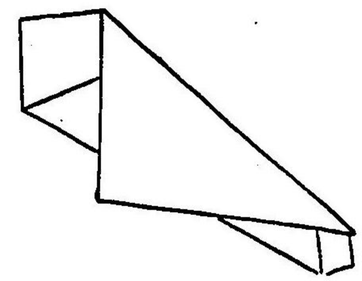
第二圖



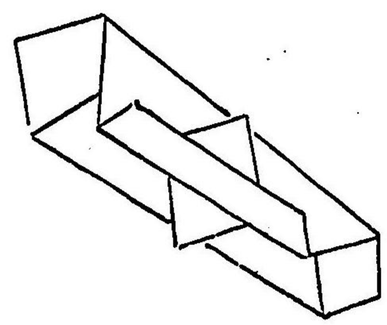
第三圖



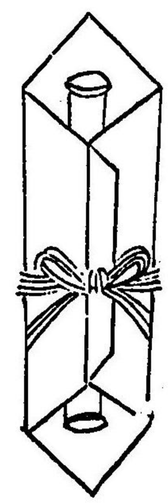
第四圖



第五圖

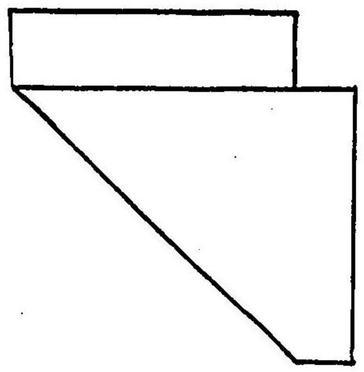


第六圖

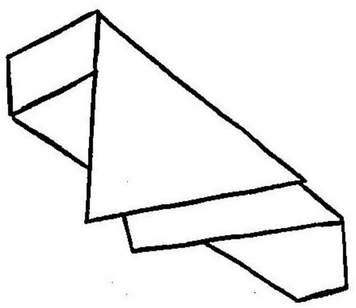


手拭帛紗類包み方

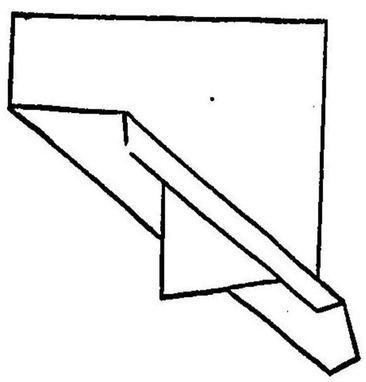
第一圖



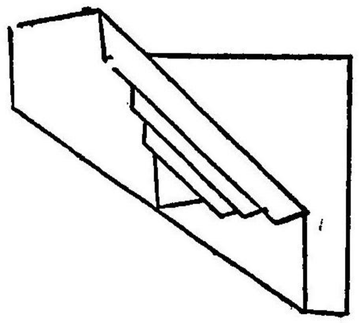
第二圖



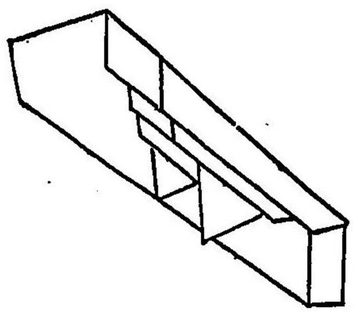
第三圖



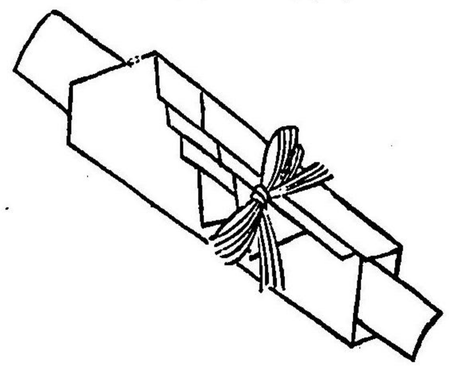
第四圖



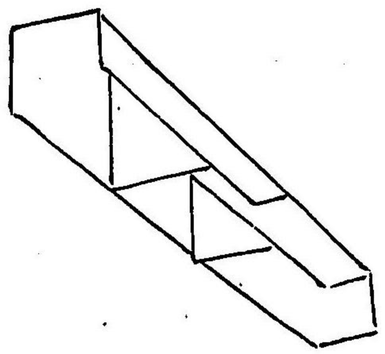
第五圖

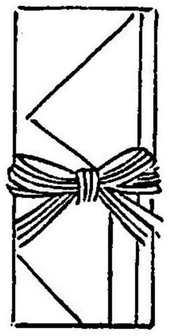


第六圖



第五章　饗　應





供饌に用ゐる膳の種類は貴賤貧富に從ひて一定したるものにあらず即ち高貴の人は四方三方等を用ゐ次には懸盤、蝶足等を用ゐたり而して上下の區別なく一般に用ゐらるゝは木具の膳なりとすさて此三方四方なども昔は皆白木のみを用ゐ器物も瓦器を用ゐたりき是我國の風習として如何にも清潔を尊ぶ所より斯くしたるなり故に今日と雖も婚禮式等古式を用ゐる場合には皆白木

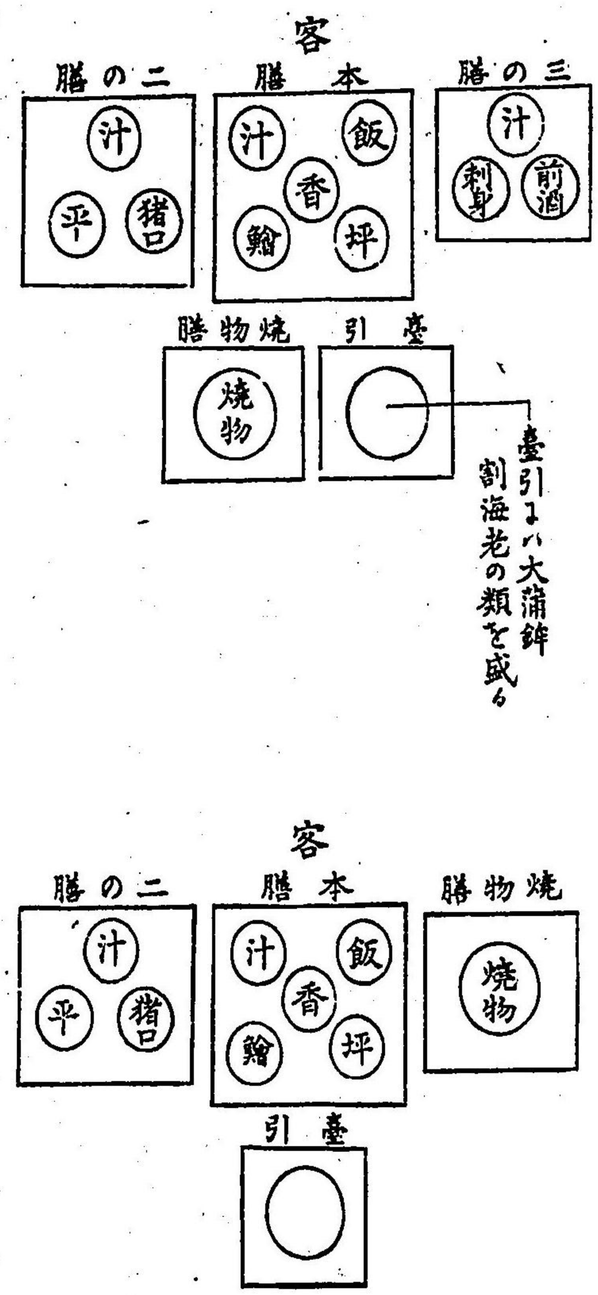
の物を用ゐ器物も亦瓦器の類を用ゐるなりされど普通の場合には黑塗蒔繪等膳の種類に關せず何れも其好みに從ひて用ゐるなり

供饌の式には數種ありて其作法も亦一定からず七五三、五五三等ありて其作法至極鄭重を極め居るものなれども近世鄭重なる供饌として行はるゝは三汁八菜、二汁七菜、二汁五菜等なり故に此所には右に就きて其方法を述ぶべし又普通一般に行はるゝものを畧式として各其調膳、配膳、給仕等の次第を擧ぐべし

第一　調　膳

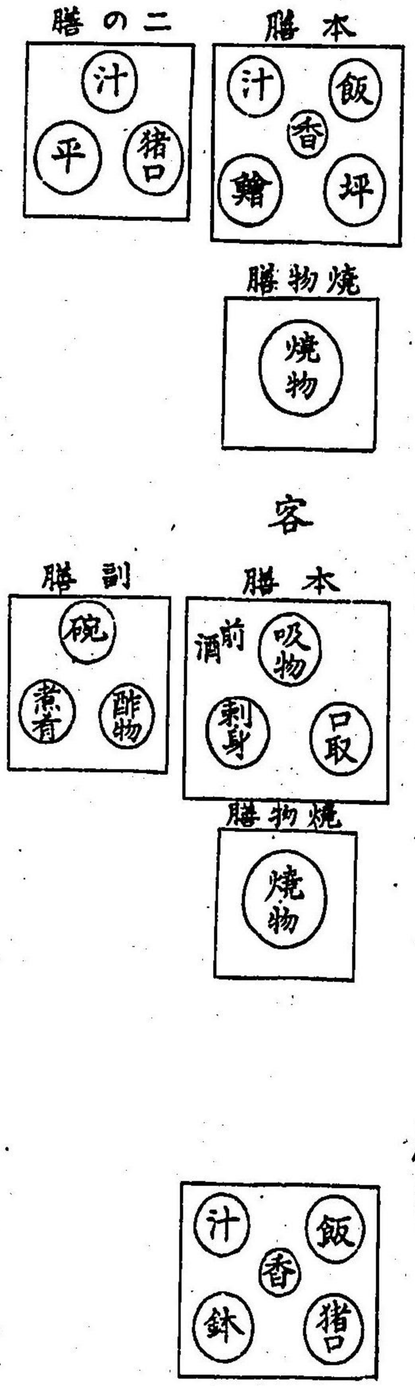
三汁八菜は本膳二の膳三の膳燒物膳臺引二汁七菜は本膳二の膳燒物膳臺引二汁五菜は本膳二の膳燒物膳とす略式は吸物膳副膳燒物膳本膳等にして其排列次の如し

三汁八菜



二汁七菜

二汁五菜



略式

別に

第一配膳

三汁八菜は第一本膳第二二の膳第三三の膳第四焼物膳第五臺引と順次に之を出だす其排列の次第は前圖に掲げたるが如し次に飯の盛替次に汁の盛替（飯汁の盛替は幾度にても客の好みに從ふべし）次に盃臺（臺引焼物三の膳等を引きたる後本膳の正面に出だす）次に銚子次に吸物膳（二の膳と引き替ふべし）次に肴是にて三汁八菜及び中酒の事濟みたれば先づ吸物膳を引き次に湯及び

水を出だし次に蒸菓子を持ち出でゝ本膳と引き替へ次に濃茶次に干菓子次に薄茶是にて式全く終るなり

二汁七菜は第一本膳第二二の膳第三燒物膳第四臺引にして飯汁の盛替をし臺引燒物を引き盃臺を出して中酒を終へ吸物膳肴等を出し湯水及び菓子茶等を進むること總べて三汁八菜に異ることなし

二汁五菜は燒物膳を引く時先づ盃臺を持ち出でゝ之と引き替へにするなり其他は總べて二汁七菜に同じ

略式は先づ吸物膳を出だし次に副膳次に燒物膳と順次に持ち出で然る後盃臺に銚子を添へて持ち出で主客盃の式終りて後德利を袴に入れて出だすべし酒宴終りし後本膳を出だし飯を進め飯及び汁の再進をし膳を撤して茶菓を進むべし

又配膳の人は座敷の廣狹給仕人の多少等によりて客座の配置給

仕の進退等總べて不都合なきやう注意せざるべからず即ち左にその概略を擧ぐべし

座敷の都合によりて片側にのみ客人の座を設けたる時は給仕の者一行に列りて膳を持ち出で之を据ゑ例の通り下座の方より三膳引きて立ち末座の者先に立ちて入るべし二の膳三の膳を据うるも其方法替ることなし但し三人にても五人にても其起居進退一樣に遲速なきやうにすべし

座敷廣くして給仕の往來自由なる處は兩側に出すをよしとす其時は給仕の者左右二行に列びて膳を持ち出で客座の前に至りし時左右に別れ客の正面に向ひて跪き進め終りたらば下座の方に向ひて立ち歸るべし進退不揃のことなきやう注意すべきは前條に異ることなし

又狹き座敷に多人數の客を入るゝ時は左の方法に從ふをよしと

す即ち最初より客座を交互に設け置き客の人數に從ひて給仕の者一行になりて出で客座に至りし時交互に左右に向ひて膳を据ゑ何れも下座に向ひて立ち元の如く一行になりて退くなり之を千鳥掛膳出し方といふ

又通ひの人數少くして客多人數なる時は最初に給仕二人膳を持ちて並び出で先づ上座の客の前に至り左右に別れて客の正面に向ひ左右同時に之を据ゑ最上客の給仕は少し上座の方に退き向ひ座の給仕は少し下座の方に退き向ひ座の方先にたち上座の給仕其後に續き一行になりて退くべし次に他の給仕二人並び出で て今しも退き來る一行を中に挾み出で左右の次客に据ゑ先の如くにして退くなり總べて出づる者は二行になりて兩側を歩み退くものは一行になりて中央を歩むなり斯くして間斷なく往來する時は何程多人數の客にても混雜することなし但し座敷は廣きにあらざれば進退自由ならずして却りて混雜を來す事あるべければ少くとも巾二間半の座敷にあらざれば實行し難し

第三　給仕

熨斗鮑　熨斗鮑とは即ち普通に用ゐる熨斗の事なり鮑を以て製するにより斯くは稱するなり此物は古來祝意を表する爲めに用ゐる來れるものにして即ち當今に於ても贈物其他に添ふる物是なりさて古來の例として初春年始の客には先づ熨斗鮑を進む又親戚知己の家に於て嫁取り聟取りして始めて我家に來りし時なども之を出だすことあり其他鄭重なる供饌には膳部を出だす以前に於て先づ熨斗鮑を出だすこともあるなり

右に用ゐる熨斗の形は種々あり即ち卷たる物結ひたる物或は長熨斗とて特に長く製したる物を用ゐる事もあるなり卷たる物などは別に考慮を要せずして自然に形の備りたるものなれば可な

れども長熨斗は然らず頭を已か右にして中央に重りを置き熨斗の跳ね返るを防ぐべし是等の熨斗は何れも三方に載せて出だすべし三方は元と槍の白木にて造れる物にして昔は高貴の人ならでは用ゐざりしものなれども今は何人にても用ゐることゝなれり塗りたる物は畧式なりとぞ

先づ三方の臺の綴目を人の方に向け左の手を刳形に入れて下より之を捧げ右の手を上の折敷の縁に添へ例の如く持ち出で上の間の閾の外に跪きて先方の容子を伺ひ今持ち出でゝ妨なしや否を觀然る後起ちて進み入るべし之を中座といふ貴人の座より四五尺手前に跪き左の手を刳形より出だし兩手にて左右の縁を持ちて前へ進め然る後例の如く臺の下部を左右の手にて推し進め右左右と三膝引きて立ち歸り閾の外に至りて座し此所にて叮嚀に拜禮し然る後起ちて進み出で三方の手前に跪き臺の下部に兩

手を掛けて少し引き下げ次に左右の縁を持ちて己が前に取り下け然る後持ち出でし時の如く臺の刳形に左手を入れ右手を縁に添へて取り上げ三膝引きて常の如く立ち歸るべし是貴人に對して最敬禮の時行ふ作法なり但し主客對座の時は其中央に差置き貴人の方に向ひて立つを禮とす

普通禮に於ては前の如くにして三方を持ち出で直に人前に据ゑたる後三膝引きたる儘にて正しく座し叮嚀に禮を行ふべし禮終りたらば進み出でゝ徐に三方を引き寄せ取り下げて歸ることと前と異ることなし又二人以上の客に出だす時は先づ上座の人に進め次に下座の人に進むべし又時としては衆人に對して一同に出すことあり其時は例へば客數五人ならば其中央に跪きて例の如くに据ゑ三膝引きて禮を行ふこと普通禮の如くすべし若し又十、二十の人座敷の兩側に並び居し時は其座の中央に三方を置き己

は下座の客より少し下りて禮を施すべきなり
受け方は最敬禮の時ならば己れ最も尊きを以て先方の者の拜禮せし時膝の左右に手を突き只少し頭を下ぐれば足れりと雖も普通禮に於ては先方の人の禮を行ひし時は己も叮嚀に禮を施して之を受くべし又上輩の家に行きし時熨斗蚫を出されたる時は少し進み出で〻三方を取り推し戴きて後元の座に据ゑ三膝引きて禮を行ふべし又衆人に對して一同に出されたる時は各能く注意して禮の輕重遲速なきやうに行ふべし

本膳　本膳には飯、汁、坪、鱠、香物を前圖の如く排列し最初より客の方に向け三方と等しく左手を膳の下に入れ右手を緣に添へて持ち出で上の間の閾外にて中座し靜に立ちて室内に進み入り程よき所に跪きて下に置き左右の手にて膳の兩方の緣を持ち客の前に進らせ兩脚の下部の所を聊推し進め三膝引きて例の如く立ち

歸るべし

二の膳　二の膳には二の汁、平、猪口を据ゑ是亦客の方に向け左右の緣の所を持ち立ち出で〻此度は中座せずして直に進み出で本膳の右の方(即ち客の右の方也以下左右とあるは何れも客の方よりと心得べし)に少し離して本膳の方に捻りて立ち歸るべし

三の膳　三の膳には三の汁、刺身、煎酒等を載せ二の膳と同じやうにして持ち出で本膳の左に置き三膝引きたる後本膳の方に捻りて立ち歸るべし

燒物膳　燒物膳は三の膳より稍小さき物にして高さは二の膳と略同じ程なる物を用ゐるべし其中央に燒物を載せ左右の手にて持ち出づること二三の膳に異ることなし本膳より少し手前に跪き之を本膳と二の膳との間の前に置き本膳の方に向ひ捻りて立

ち歸るべし

臺引　是も亦燒物膳と同じ大さなり臺引に盛る品物は固より一定ならず大蒲鉾、小串の鰻、割蝦の大なる物等にして相當の器に盛りて膳に据うべし其持ち方等は燒物膳と異ることなし位置は本膳と三の膳との向ひ即ち燒物膳と並べて置くべし

右供し終りたらば主人席を正しうして挨拶し箸を取られんことを請ふべし客亦相應の辭禮あるべし

飯盛替　客の箸を取られたる時飯櫃を持ち出づべし飯櫃は黑塗又は木地にて同じ臺に載せ同じ杓子を添ふべし杓子は仰向けて飯櫃の手前に置き兩手にて靜に持ち出づべし介添の人も盆を兩手に持ちて續き出でさて客室の閾際即ち中座の席に座し臺を下に置きて暫時控へ居り適當の折を見計ひて蓋を取るなり

先づ蓋の兩端を兩手にて持ち客に湯氣の見ゆるやう蓋を仰向け

にして飯櫃の手前の緣にて露を切り下座の方に少し向ひ介添の持ち出でたる盆の上に置くべし此時介添の人は下產より進み出でて蓋の置きよきやうに盆を前に進むべし蓋を受け終らば介添の人は直に上座の方に捻りて立ち歸るべし

さて飯櫃の蓋を取り終らば杓子を櫃の中に入れ兩手にて櫃を臺の中央に直し靜に立ちて進み入り客の左手の方に行き飯櫃を上座の方に斜に置き少し體を客の方に向け右手に左手を添へて差し出だし飯椀を受け直に左手に移し斜に飯櫃の方に向き右手に杓子を取り二杓子入れ右手に移し又少し客の方に向き最初の如く左手を添へてさし上ぐべしさて後は直に飯櫃を持ちて立ち歸り復ひ飯櫃に飯を入れ又以前の如くにして持ち出で盛り更ふべし此仕方は幾度も同じ事とするべし但し二人三人の客ならば上座の客より順次に盛り替へ次第に下座の方の盛替をして後に飯

櫃の盛替をすべし

汁盛替　程合を見計らひ汁椀に汁を盛りて折敷或は膳に載せ兩手にて持ち出で二の膳の向ひに跪き替椀を載せたる膳を上座の方に斜に置き椀を少し手前に引き寄せ替汁の蓋を取りて膳の手前の縁に掛け次に左右の手を伸ばして本膳の汁椀を取り通ひ膳の向うの方に置き次に替汁の椀を取りて本膳に据え空椀を通ひ膳の中央に直し今取りたる替椀の蓋をして例の如く三膝引き本膳の方に向ひて立ち歸るべし猶汁を更へらるゝ樣子あらば此度は空膳を持ち出で椀を請ひて持ち歸り勝手にて盛り更へて進らすべし尤も替椀不足の時は最初より空椀を請ひ來て盛替をするも妨なし

盃臺　飯終りたらば三方或は盃臺に盃を据えて持ち出づべし其持ち方は熨斗三方の時に同じ二汁五菜に於ては盃臺を持ち出で

たる人先づ客の正面に跪き盃臺を上座の方に置き燒物を取り下げて斜に下座の方に置き其跡に盃臺を据ゑ次に燒物を取り三膝引きて立ち歸るべし但し三汁八菜の時は先づ臺引を下げ次に燒物を下げ後に盃臺を持ち出づべし又二汁七菜の時は燒物は三の膳の位置に在るを以て盃臺は臺引と取り換へて据うべし

中酒一献濟みたる時は給仕の者靜に立ち出で盃臺の前に跪き臺の下部に左右の手を掛けて少し引き下げ後左右の緣を持ちて己の前に置き次に持ち出でし時の如くに持ち三膝引きて立ち歸るべし客若し中酒の盃を二の膳に置かれたる時は盃臺のみを持ちて立つべし中酒濟みて後主客獻酬の事ある時は此限にあらず

銚子　盃臺已に出でたる時は銚子を持ち出づるなり先づ口を向うにし鉉を下より右手にて持ち左手を底にあて例の通り靜に進み出で中座して銚子を下に置き左手を脇に突き右手は猶鉉を持

ち居り客の容子を窺ひて暫時控へ居り頓て立ちて進み出で下座の方に跪き左手を突き一進みして注ぐべし正面座の時は客の左の方より注ぐべし注き終りたらば元の如く持ち三膝引き本膳の方に向ひて立ち歸るべし

吸物　盃臺を下げし時は直に吸物を出だすべし膳は二の膳と同じ程の大さにてよし先づ吸物膳を持ち出でゝ斜に上座の方に置き二の膳の下部を兩手にて引き下げ後左右の緣を兩手にて持ち取り下げて下座の方に置き其跡に吸物膳を据ゑ二の膳を持ちて立ち歸るべし若し中酒の盃二の膳にある時は引き替へたる後盃を取り吸物膳の客に近き隅の處に置きて立つべし

肴　次に肴を進む二汁五菜ならば刺身三汁八菜ならば相當の品を見繕ひて進らすべし例へば鰻の蒲燒、玉子燒又は燒肴、酢びて等何にても皿に盛りて出すなり先づ之を盆或は膳に据ゑて客の右

の方に持ち參り上座の方に置き先づ吸物膳を見て直に載せ得べきさまならば左右の手を突き一進みして皿ばかりを取りて之を載せ空膳或は空盆を持ち三膝引きて立ち歸るべし若し又吸物の位置宜しからずして之をつけ込むに困難なるさまならば先づ吸物の位置を直し然る後肴をつけて立つべし中酒終りたらば靜に出でゝ吸物膳を引くなり其方法例の如く歩み出でゝ吸物膳の向ひに跪き左右の手を膳の下部に掛けて少し引き下げ膳の左右の緣を持ち三膝引きて本膳の方に向ひて立ち歸るべし

湯　黑塗或は蒔繪の湯桶を同じ臺に据ゑ口を向うにして左右の手にて持ち出で中座して客の樣子を見合はせ程よき折に立ちて客の左の方に持ち出で臺を上座の方に置き一進みして右手にて湯桶の手を取り左手を口の下に添へて注ぐべし注ぎ終りたらば元の如く臺に据ゑ本膳の方の膝より三膝引きて立ち歸るべし若

し次客あらば以前の如く又其左に進み出でゝ注ぐべし故實に湯は先づ主人に試み注ぎて後客に進むることあれども現時は先づ客に注ぐをよしとす

水　鄭重なる饗筵に於ては湯桶に續きて水指をも持ち出づべし是客の乞はれん時の用に供するものなりさて先づ右手に水指の手を持ち左手にて底を受けて持ち出で口を向うにして下に置き下座に控へ居るべしさて湯桶入りたらば客の用あるや否を見計らひて入るべし但し如何程鄭重なる儀式を行ふとも婚姻の禮には決して水指を出だすべからず是古來の習慣にして人の忌む所なればなり

蒸菓子　饗宴已に終りて賓客已に箸を置かれたる時は蒸菓子を緣高或は之に準じたる器に盛り三方又は足打に載せ左右の手にて持ち出で客前相當の所に跪き之を上座の方に斜に置き一進み

して後本膳の下部に手を掛けて少し引き下げ後兩手にて左右の緣を持ちて一旦下座の方に下げ然る後兩手にて菓子を其跡に据えて少し推し進むべしさて少し本膳の方に向きて始め持ち出でし時の如く左手を膳の下に入れ右手を緣に添へ三膝引きて立ち歸るべし

濃茶　已に蒸菓子を進らせたらば先づ濃茶を進らすべし此時は袱紗を式の如く四つに疊み角を向うにして茶碗の下に敷き天目臺に載せて持ち出で例の如く先づ上座に置き菓子を引き下げて其跡に進らすべし

干菓子　客已に濃茶を喫せられたる時は干菓子を陶磁製の器に盛り相當の臺に据えて持ち出で例の如く上座に置きて濃茶茶碗と引替にすべし

薄茶　薄茶は袱紗を用ゐず臺に据えて進らせ少し引き下りて控

へ居り客の飲み終るを待ち徐に進み出で茶碗を取り下げて立ち歸るべし

略式　吸物膳、副膳、燒物膳等出揃ひて主客挨拶終りたらば盃臺に銚子を添へて持ち出で中座して先づ盃臺を主人の前に置き銚子を持ち出でゝ下座に控ふるなり主人盃臺を持ちて客の前に至り下座の方より之を進む客席を避け一禮して之を受くる時給仕進み出でゝ酌を取り又下座に至りて待つべし次に客亦盃臺を持ち て主人の前に至りて返盃すべし主人席を去り挨拶終りし後給仕又出でゝ酌を取るなり主人客に座に着かんことを乞ふ客會釋して座に復りし後主人も亦着席し盃を臺に載せたる時給仕之を持ち去りて客に進め酌を取りて後再び主人に進む三献の式終りし時盃臺を引きて煖酒を持ち出でゝ進むるなり進め方は先づ中座をして座中の樣子を見主人の命を待ちて客に酌をし次に主人に

注ぐなり客の辭退せらるゝまでは前の如く酌をするものと心得べし酒宴終りし後燒物膳を引き本膳を持ち出でゝ吸物膳と引替へ飯の盛替をする人飯櫃を臺に据ゑて持ち出で座敷の下座に控へ居り通ひの者盆を持ち出でゝ飯の再進をすべし汁の再進は二汁五菜の方法に同じ但し客多人數なる時は盆を持ち出でゝ椀を乞ひ盛替して進むるも妨なし湯は飯と同じく席末相當の所に持ち出で置き給仕の者茶碗を受けて下り湯を注ぎて進らせ次に菓子及び茶を進むべし

第四　受饌

他家に賓客に招かれて饌具悉く供せられ主人の挨拶終りたる時は賓客亦相當の謝辭を述べ然る後膳に向うべしさて先づ本膳に在る飯の蓋を左手にて取り右手を添へて持ち直し左手にて膳の左側即ち飯椀の側に當る所に仰向けて置くべし次に汁の蓋を取

るべしそは右手にて取り左手を添へ持ち直して右の方即ち汁椀の側に當る所に置くべし次に坪の蓋を取る其仕方飯椀の時に異ることなし坪の側に當る左手の所に置くべし

飯　兩手にて飯椀を取り左手に据ゑ右手にて箸を取り飯椀を持ちたる左手の無名指と小指との間に箸の中央を挾みて持ち直し二口ほど喰ひ又箸を前の如く指の間に挾み持ち直して元の如く膳に置くべし世間には尖の方を膳の左の縁に掛け置く作法あれども汚れたる方を顯はすは餘り見よき事にあらず故に平常人のする如く頭の方を右の縁にかけ尖の方を膳の面に接するやうに置くべし蓋し膳を汚す恐れありといふ説あれども箸の尖をさのみ汚し置かざれば目に立つばかり膳を汚すことはなし且つ假令聊膳は汚るゝとも寧汚れたる尖を顯はすには勝れり

汁　兩手にて汁椀を取り先づ一口吸ひ左手に据ゑさて箸を取り

前の如くして持ち直し汁の實を喰ひ箸を置き兩手にて汁を吸ひ然る後元の位置に置くべし

飯　前に異ることなし

汁　兩手にて汁椀を取り上げ前の如くして箸を持ち此度は先づ實を食ひ箸を置き然る後汁を吸ふべし

飯　前の如し

鱠　先づ右手にて箸を取り左手を添へて持ち直し左手を突き顏を少しく膳の方に出だし膳に置きたるまゝ箸にて挾み皿の縁にて酢の滴らざるやう少し絞りて後に喰ふべし

飯　前の如し

坪　若し汁あるものならば先づ兩手にて取り上げ一二箸食ひ箸を下に置き汁を吸ひて元の位置に返すべし汁なき物は始めより下に置きたる儘にて食ふをよしとす

飯　前に同じ

二の汁　先づ右手にて蓋を取りて二の膳の右脇に置き次に平の蓋を取りて是亦膳の右側に置くべしさて右手にて椀を取り上げ之を左に移し然る後箸を取りて一二箸實を食ひ箸を置きて後兩手に持ちて汁を吸ひ右手にて元の膳に置くべし

飯　前の如し

平　右手にて平を取り左手に移し然る後箸を取りて食ふべし若し汁あらば箸を置きて後に汁を吸ふなり

飯　前の如し

三の汁　先づ左手にて蓋を取りて三の膳の左脇に置くべし次に左手にて椀を取り右手にて取り直し左手に据ゑ然る後箸を取りて實を食ひ箸を置きて後に汁を吸ふべし

飯　前に同じ

刺身　先づ右手にて箸を取り左手を添へて持ち直し少し左の方へ向きて身を煎酒の中に入れ然る後之を取り上げて食ふべし

飯　前に同じ

猪口　先づ右手にて取り左手に据ゑ然る後箸を取りて食ふなり一箸二箸食ひたらば箸を下に置きて猪口を元の位置に置くべし右の如く順次に喰ひたる後は何にても食ひてよし以前の順序に拘はるに及ばず但し飯を喰はずして菜をのみ食ふはよろしからず必ず菜と菜との間には飯を食すべし總べて食ひ始めの菜にて食ひ終るを始終の禮と稱して正しきものとすれども強ひて拘はるべきにあらず時の宜しきに從ふべし最後に飯を食ひて箸を納むべし湯を受けたる時香の物を食ふなり香の物は小さき物ならば一口に食ふもよろしけれども大きく切りたるものは齒形の見えぬやう二口三口に嚙み切るべしさて湯を飲みて全く箸を

納むべきなり

當時は臺引、燒物などに箸をつけぬを禮の如く思ふ人もあれども
は然るにあらず只是等の品物は大なるものどもなれば箸をつく
るも食ひ盡し難し故に見苦しく取り荒さんを恐れて多くは箸を
つけぬなりされば其品物によりては食するも素より妨なしとす
又地方によりては平をも食はぬものゝ如く心得居るものあれど
も是等は大なる誤なれば是彼食ひ荒さぬやうにして食すべきな
り飲食の際注意すべき事を左に記すべし

一飲食の際ものをいふ時は箸を下に置くか或は箸を持ちたる手
を膝に置くべし

一食物口に在る時はものをいふべからず先づ嚥み込みて然る後
にいふべし

一ものを食する時餘り多く口に入るゝは見苦しきものなり且又

人より話しかけられたる時急に答の出來かぬるものなれば失
禮となることあるべし

一總べて食事の時舌打鳴らし或は噓などするはよろしからず

一ものを食する時は口を閉ぢて食ふべし

一鰻其他燒物などの串に貫きたるものは箸にて肉をおさへ左手
にて串を拔くべし

一魚肉は能く解き崩して食すべし又鯛などの燒物は裏を反さぬ
ものなり魚類は何も〳〵肉を反さぬを可とす

一蒲鉾又は半片大根の類の大なるものにて齒の痕のつくものは
其左右を少しづゝ食ひて形を直すべし之を忍び食といふ

一總べて堅き物又は食ひ惡くき物は扣目にするを可とす

又箸の遣ひ方食ひ方等につきて古より忌み嫌ふことあり深く拘
泥するに及ばざるが如しと雖も是等の事を心得置かざれば覺え

す見苦しき擧動して嘲を招くことあれば心得の爲め左にしるす

又盛り　箸にて飯を椀の中に押付けて食するをいふ

受吸　汁の再進等を受けて一旦膳に置かずして其儘に吸ふをいふ

こみ箸　食する物を箸にて口中に妄に押込むをいふ

移り箸　菜を食ひて飯を食はず直に他の菜に移るをいふ

そら箸　食せんとして一旦箸をつけし物を食せずして其儘箸を引くをいふ

膳越し　膳の向うにある物を手に取り上げずして其儘食するをいふ

袖越し　二の膳其外右の方にあるものを左の手に取り三の膳其他左にあるものを右の手にて取るをいふ

箸なまり　何れの菜を食せんかと箸を取りてとゝかしてを見

廻すをいふ

睨食　物を喰ひながら椀の上よりあちこち見廻すをいふ

探食　茶碗蒸又は羹等の下の方に又何ぞあるかと探り試るをいふ

もぎ食　箸につきたるものを口にてもぎ取る如くするをいふ

ねぶり箸　食する物を口に多く入れ箸先を深く舐るをいふ

附陪食

貴人陪食を命ぜられたる時は慎みて其歡を助け何事も其命に逆はさるやう心懸くべし

先づ食せんとする時は貴人の樣子を見計らひ其手をつけて食せらるゝを見て已も亦食し始むべし貴人若し箸を休めらるゝ時は已も亦箸を置くべし又物語などせらるゝことあらば箸を置き兩

手を突き恭しく答ふべし總べて食物を喰ひながら又は口に含みたる儘にて答ふるは失禮なり又若し盃を賜はることあらば慎みて之を受け返盃せよと命ぜられたる時は速に參らすべし又最初に通ひの者我が膳を持ち來りたる時は自ら兩手を出して之を受け場合によりては一禮をも施すべし食ひ終りたる時も亦同じく手づから膳を取りて通ひの者に渡すべし又食事中は成るべく座を立たぬものなれども若し已むを得ざることあらば我が膳を少し上座の方に片寄せさて後次座の人に挨拶して立ち袖、裾等總べて衣服の物に障らぬやうに心懸くべし

女子作法書 實習之部終

明治三十一年十一月廿四日印刷
明治三十一年十二月一日發行

〔作法書實習之部〕
定價金三十五錢

著作者 東京市本郷區森川町一番地 佐方鎮
著作者 仝 神田區駿河臺南甲賀町八番地 後閑菊野
發行者 仝 京橋區南傳馬町二丁目五番地 目黑甚吉
發行者 仝 日本橋區通三丁目十番地 河出靜一郎
印刷者 仝 京橋區弓町二十三番地 橘磯吉
印刷所 仝 京橋區弓町二十四番地 三協合資會社

版權所有

高等女子師範學校教授 後閑菊野先生 佐方鎮先生 合著

● 家事教科書 全 二冊 上卷 定價金五拾錢 郵税金六錢 下卷 定價金四拾錢 郵税金四錢

高等女子師範學校教授 佐方鎮先生 後閑菊野先生 合著

● 女子作法書 全 二冊 心得之部 定價金四拾錢 郵税金六錢 實習之部 定價金卅五錢 郵税金六錢

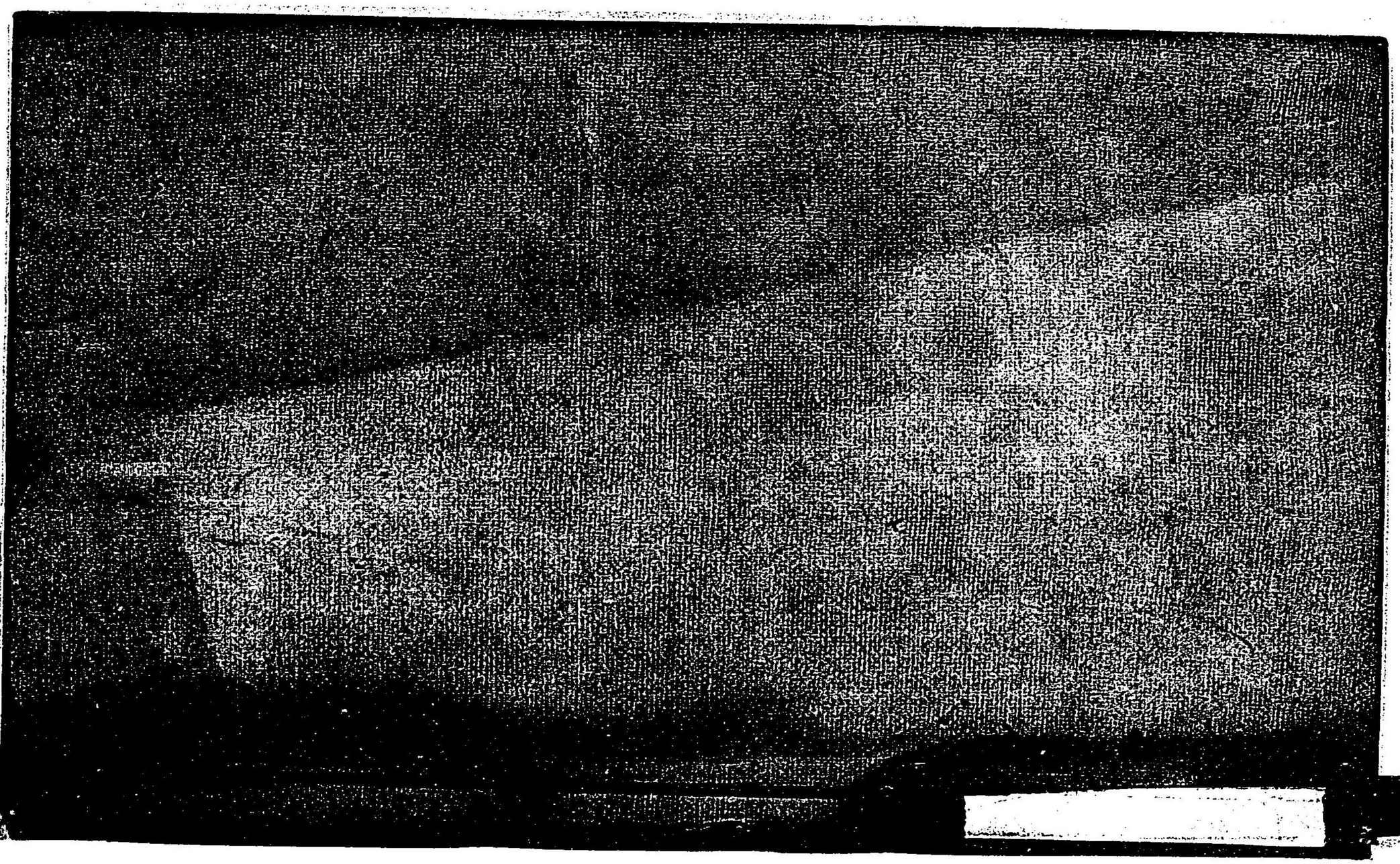
高等師範學校教授野口保興先生著

● 中等教育 地理教科書 全 三冊 本邦之部 定價金九十錢 郵税八錢 外國之部 上卷 定價金七十錢 郵税六錢 地文之部 下卷 定價金九十五錢 郵税拾錢 近刊

高等師範學校教授野口保興先生著

● 中等教育 輯製新地圖 全 二冊 本邦之部 定價金五十五錢 郵税六錢 外國之部 定價金壹圓 郵税六錢

内田儀八先生著

● かなつゝのひ集成 全 一冊 定價金參拾錢 郵税二錢

發行所 京橋區南傳馬町二丁目 日本橋區通三丁目 目黑書店 成美堂